【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】
　展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(東京国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施（年5,800件程度）
イ　陳列総件数　約7,500件
ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。
エ　特集陳列
　特別展「和様の書」の開催に合わせた特集陳列「和様の書−近現代編−」を開催する。東洋館の開館を記念した特集陳列「上海博物館所蔵中国絵画精品展(仮称)」を開催する。また、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。すでに恒例となった「博物館に初詣」関連企画、上野動物園・科学博物館との動物を取り上げた連携企画、台東区立書道博物館との連携企画などを実施する。
　・「花生」(3月19日～6月2日)
　・「うつす・つくる・のこす－日本近代における考古資料の記録－」(9月10日～10月20日)
　・「江戸時代が見た中国絵画（仮称)」(5月13日～6月19日）等
オ　文化庁関係企画
　・「平成25年 新指定 国宝・重要文化財」(仮称)（4月16日～5月6日）
　　平成25年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　富田　淳

【実績・成果】
(4館共通)
　総合文化展(平常展)は、平成25年度においては、本館1階は26年4月のリニューアルオープンに向け、26年1月～26年3月まで本館15～19室を工事のため閉室したが、平常展来館者数の目標値である全中期計画期間の年度平均を上回った。
（東京国立博物館）
ア　定期的な陳列替を実施し、5,708件の展示替を行った。
イ　陳列総件数　8,824件
ウ　展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。本館2階の展示ケースの補修を行った。また、26年1月より本館1階15～19室を閉室し、展示環境の改善のための工事を開始した（26年４月15日公開予定)。
エ　33件の特集陳列を実施した。
オ　「平成25年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(25年4月16日～5月6日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。

【補足事項】
・黒田記念館は、耐震改修のため24年4月8日より休館中。27年1月2日より展示を再開する予定。
※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
平常展来館者数　(23年度より黒田記念館を含む)	484,429人	362,470人	A	経年	330,536	373,068	324,597	416,430
陳列替件数	5,708件	5,800件程度	B	変	316	290	4,914	6,989
陳列総件数	8,824件	7,500件程度	A	化	6,601	5,610	7,394	9,190
特集陳列等実施回数	33件	－	－		66	53	32	47

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】
(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(京都国立博物館)
　平成２５年度末の新平常展示館開館までの間、平常展は休止する。これに替えて、香川県立ミュージアムにて「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」を開催する。(特別協力、4月20日～5月26日)」　また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(京都国立博物館)
　平成知新館（新平常展示館）建替工事に伴い、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。
・特別展「いとうるわし。日本の美　京都国立博物館名品展」(香川県立ミュージアム、4月20日～5月26日)」へ企画協力をした。(特別協力)
・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。
(中期計画記載事項)
　平成知新館(新平常展示館)建替後の平常展再開については、平成26年9月13日リニューアルオープン予定とし、その準備を進めた。

【補足事項】
・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。
・ウェブサイトにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館では極めて画期的なものといえる。

※京博については実績はないが、陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
平常展来館者数	－	－	－		－	－	－	－
陳列替件数	－	－	－		－	－	－	－
陳列総件数	－	－	－		－	－	－	－
特集陳列等実施回数	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
　なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2113-1-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展　(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
　平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(奈良国立博物館)
ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。
・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　　充実した展示ケースや照明設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　　５メートルに近い大きな仏像や等身大の仏像を中心に、できるだけケース外での展示を増やし、より見やすい環境で、優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。
・青銅器館　中国青銅器の名品展
　　国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。
・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する
イ～エ(略

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(4館共通)
　平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。
(奈良国立博物館)
ア　名品展においては、24時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。
・西新館　絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　収蔵庫の工事(処理番号1330を参照)期間中、東新館を仮収蔵庫としたため、例年東新館で開催していた特別陳列を25年度は西新館で行い、西新館の名品展を休止した。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。また、25年8月5日の大雨による雨漏り被害の補修工事期間中は、なら仏像館の一部の展示室を閉室した。
　特別公開「金剛寺　降三世明王坐像」(23年10月24日～26年3月31日)
　特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」(24年6月26日～26年3月31日 ※ただし夏期特別展期間中を除く)
・青銅器館　中国青銅器の名品展
　館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。
・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日）を開催した。

【補足事項】
　収蔵庫工事に伴う西新館での名品展休止や、雨漏り被害によるなら仏像館の一部閉室があった中、年度を通して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の仏教美術の展観を行い、年間来館数の目標値を上回ることができた。

特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
平常展来館者数	122,075人	118,032人	A		136,672	71,566	130,839	145,914

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展　(2/2)

【年度計画】
(奈良国立博物館)
ア(略)
イ　定期的な陳列替の実施（年70件程度）
ウ　陳列総件数　約500件
エ　特別陳列により名品展の充実を図る。
　　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
　・「おん祭と春日信仰の美術」（12月7日～平成26年1月19日）
　・「お水取り」（平成26年2月8日～3月16日）

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
イ　定期的な陳列替を実施し、130件の陳列替を行った。
ウ　陳列総件数　632件（特別陳列・特集展示を含む）
（改修工事の影響で西新館での名品展（珠玉の仏教美術）を休止したため、昨年度より陳列総件数減）
エ　下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(25年12月7日～26年1月19日)　陳列件数63件（陳列替3件）
・特別陳列「お水取り」(26年2月8日～3月16日)　陳列件数62件（陳列替22件）
○特集展示「新たに修理された文化財」(25年12月25日～26年1月19日）を開催し、保存修理事業の成果を公開した。陳列件数8件
○特集展示「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(26年2月8日～3月16日）を開催し、岩手県立博物館と平泉町（平泉文化遺産センター）の所蔵品を展示した。陳列件数31件
○特別展示「正倉院宝庫の瓦」(10 月 26 日～11 月 11 日、12 月 25 日～26 年 1 月 19 日、26 年 2 月 8 日～3 月 16 日)を開催し、正倉院正倉整備工事に伴い、正倉院宝庫に葺かれていた瓦を展示した。陳列件数 18 件

【補足事項】
特集展示・特別陳列等を除き、通常の名品展(平常展)における各会場毎の陳列総件数は次のとおり。
　珠玉の仏たち(なら仏像館)213件
　珠玉の仏教美術(西新館)　　0件（改修工事の影響で西新館での名品展を休止したため）
　中国古代青銅器(青銅器館)237件

※○陳列替件数が目標値を大幅に上回った理由
・なら仏像館の一部閉室後、別作品を展示したため。
・特別展「みほとけのかたち－仏像に会う－」開催に伴い、なら仏像館の一部陳列替が必要となったため。

※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

特集展示「いにしえの東北」（豊岡遺跡の出土品）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
陳列替件数	130件	70件程度	S		8	101	481	465
陳列総件数	632件	500件程度	A		717	340	1,092	814
特集陳列等実施回数	10回	－	－		8	5	12	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1平常展

【年度計画】(4館共通)
平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(九州国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施（年1,100件程度）
イ　陳列総件数　約1,700件
ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに向けて引き続き検討する。
エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定）。
・「江戸のサイエンス－武雄鍋島家の西洋科学遺品（仮）」（関連11室、4月16日～7月7日）
・「山の神々（仮）」（関連9室、10月22日～12月1日）
・「アイヌ資料（仮）」（関連9、10、11室、12月10日～平成26年2月16日）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】(4館共通)
平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均の9割を確保した。
(九州国立博物館)
ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,157件の陳列替を行った。
イ　陳列総件数　2,750件（うち国宝29件　重要文化財27件）
ウ　文化交流展示室の広報に努め、来館促進のためのさまざまな企画を行なった。
関連展示第１室の映像機器老朽化のため、通常の展示室へ改修した。
エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を14回開催し、新鮮な展示を提供することができた。

【補足事項】(4館共通)
特別展の来館者数が少なかったことにより、平常展と特別展を同時に観覧する来館者数が少なかったため、平常展来館者数が目標値に達しなかった。
(九州国立博物館)
イ　展示の関係上、本年度は単品で構成される展示作品の件数が多く、陳列可能な作品件数が多くなり、陳列総件数が目標値を上回った。
エ　25年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。
・「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」
（関連11室 25年4月16日～7月7日）
武雄蘭学関係資料の重要性を周知させ、九州が果たした先導的な役割を展示した。
・「視覚革命！異国と出会った江戸絵画―神戸市立博物館名品展―」
（関連11室 25年7月17日～9月23日）
神戸市立博物館の名品を紹介し、文化交流で生まれた江戸絵画の魅力を伝えた。
・「山の神々－九州の霊峰と神祇信仰－」
（関連9室 25年10月22日～12月1日）
九州山岳修験に係る神宝を公開し、神祇信仰の世界を展示した。
・「ロシアが見たアイヌ文化－ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館のコレクションより－」
（関連9・10・11室 25年12月10日～26年2月16日）
ロシアの収集家によるコレクションを初めて公開し、アイヌ文化への理解を深めることができた。
・「発掘された日本列島2013」
（関連1･3室 26年1月１日～2月16日）
文化庁ほか主催の巡回展で、日本列島各地の発掘調査成果を速報。あわせて東北地方の震災復興事業に伴う成果を報告、大きな反響を得た。

「江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－」
会場風景

「ロシアが見たアイヌ文化」
会場風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
平常展来館者数	349,848 人	380,690人	B	経	544,661	274,545	358,366	460,525
陳列替件数	1,157 件	1,100件程度	A	年	431	334	1,373	1,195
陳列総件数	2,750 件	1,700件程度	S	変	2,106	1,668	2,417	2,416
特集陳列等実施回数	14 回	－	－	化	22	12	13	12

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 2110-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－2展示説明の充実		

【年度計画】
(4館共通)
1)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　富田　淳 美術室長兼列品室長　岩田茂樹 文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
1)東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。
(東京国立博物館)展示テーマ数132件のうち、132件(100%)について外国語パネルを設置した。また、69件(52%)については中国語、韓国語での解説も付している。
(奈良国立博物館)展示テーマ数47件のうち、43件(91%)について外国語パネルを設置した。
(九州国立博物館)展示テーマ数47件のうち、40件(85%)について外国語パネルを設置した。また、33件(70%)については中国語、韓国語での解説も付している。

【補足事項】
(京都国立博物館)
・京都国立博物館は平成知新館(新平常展示館)建替工事に伴い、平常展示は休止しているが英語訳を付けるべく作業を行っている。

(九州国立博物館)
・九州国立博物館では、4言語による音声ガイドのほか、展示テーマパネルを4言語で提供しているほか、トピック展示の趣旨についても必ず英語を併記し、他国語対応を行った。

(東京国立博物館)東洋館題箋

(九州国立博物館)
トピック展示「視覚革命！異国と出会った江戸絵画」
展示説明パネル(日英表記)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
外国語パネル等の設置				経				
東京国立博物館	100%	80%以上	A	年	97%	96%	96%	97%
京都国立博物館	－	－	－	変	－	－	－	－
奈良国立博物館	91%	80%以上	A	化	91%	84%	89%	100%
九州国立博物館	85%	80%以上	A		82%	83%	94%	87%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展

【年度計画】
特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度
(京都国立博物館)
　年2～3回程度
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長　松本伸之 部長　村上　隆 部長　西山　厚 課長　臺信祐爾

【実績・成果】
(東京国立博物館)特別展を8回開催した。　内訳：当館開催7回、海外展1回
(京都国立博物館)特別展を3回開催した。
(奈良国立博物館)特別展を3回開催した。
(九州国立博物館)特別展を5回開催した。　内訳：当館開催4回、海外展1回

【補足事項】

(東京国立博物館)
・当初、年度計画になかった特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」が、急遽開催されることとなった。
・年度計画に記載の海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」(平成26年2月16日～5月11日、会場＝米国・クリーブランド美術館)については、26年度の評価項目とした。
(九州国立博物館)
・当初、年度計画になかった文化庁海外展「日本文化展」(平成26年1月16日～3月9日、会場＝ベトナム国立歴史博物館)が、急遽開催されることとなった。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
特別展等の開催回数								
東京国立博物館	8回	年3～4回程度	S		12	10	7	9
京都国立博物館	3回	年2～3回程度	A		5	5	6	5
奈良国立博物館	3回	年2～3回程度	A		3	4	3	3
九州国立博物館	5回	年2～3回程度	S		4	5	5	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度
(京都国立博物館)
　年2～3回程度
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/7)

【年度計画】
ア　「国宝　大神社展」（平成25年4月9日～6月2日）
　　祀りのはじまりから、神社をとりあげて、日本各地に伝来する神宝を一堂に展観する。（目標来館者数２５万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	上席研究員　池田宏

【実績・成果】
・展覧会名　「国宝　大神社展」
・会　　期　平成25年4月9日（火）～6月2日（日）（49日間）
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
・特別協力　神社本庁
・協　　力　千年の森フォーラム
・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、大日本印刷、トヨタ自動車 、三菱商事
・作品件数　215件（うち、国宝77件、重要文化財90件）
・来館者数　193,990人（目標250,000人・達成率77.6%）
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度72%

　神社本庁をはじめ、日本全国の神社から全面的な協力を得ることができたために、神社の宝物や、日本の神々に関するさまざまな文化財を総合的に示すことができた。特に、かつてない規模と質で、神像彫刻の多様な表情と姿を紹介することができた。

【補足事項】
・来館者数は目標に達しなかったが、これまで容易に実現できなかったほどの大規模かつ質の高い神道美術展を開催したことで、今後の神道美術の調査研究にとって大きな意味をもつ展覧会となったため、総合評価をＡとした。

展覧会風景

ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	193,990人	250,000人	B		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/7)

【年度計画
イ　特別展「和様の書」(7月13日～9月8日)
　平安から安土桃山時代にかけての和様の書の展開を通じて、書の魅力を紹介する。(目標来館者数１３万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館情報課長　高橋裕次

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「和様の書」
・会　　期　平成25年7月13日（土）～9月8日（日）(51日間)
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
・後　　援　文化庁
・特別協力　読売書法会
・協　　賛　光村印刷
・協　　力　あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　156件（うち、国宝51件、重要文化財35件、重要美術品10件）
・来館者数　104,577人(目標130,000人・達成率 80.4%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 72%

　三跡など能書の作品、四大手鑑などの至高の名品を集めた本展は、日本文化の中で独自に発展した仮名と漢字が融合した和様の書とともに、宮廷文学や料紙工芸など、書に関わる多様な日本の書の展開を通して、書の魅力を広く紹介することができた。

【補足事項】
・来館者数は目標に達しなかったが、最古級の仮名、三跡の能書、そして江戸時代にまで及ぶ和様の展開を、国宝、重要文化財など多くの貴重な作品によって余す所なく展観したことで、本展により日本文化における書の真髄を示すことができたため総合評価をＡとした。

展覧会風景

ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	104,577人	130,000人	B		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/7)

【年度計画】
ウ　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」(10月8日～12月1日)
　洛中洛外図屏風とともに二条城など京都を象徴する各所の障壁画を展示し、その空間装飾を紹介する。(目標来館者数２５万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　日本テレビ開局60年　特別展「京都―洛中洛外図と障壁画の美」
・会　　期　平成25年10月8日（火）～12月1日（日）(48日間)
・会　　場　平成館特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、日本テレビ放送網、読売新聞社
・特別協賛　タマホーム
・協　　賛　光村印刷、日本興亜損保
・協　　力　全日本空輸、日本貨物航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、シーエス日本、ラジオ日本、J-WAVE、文化放送、テレビ神奈川、楽天トラベル、京都市
・技術協力　キヤノン、キヤノンマーケティングジャパン、JVCケンウッド、凸版印刷
・作品件数　20件（うち、国宝1件、重要文化財11件）
・来館者数　278,801人(目標250,000人・達成率111.5%)
・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　72%

　超高精細映像展示を駆使して鑑賞の便をはかりながら、「洛中洛外図屏風」によって都の姿を俯瞰した上で、京都御所、龍安寺、二条城という京の街を象徴する建物の室内の空間構成を立体的に再現することで、400年前の京都の空間を実感的に示すことができた。

【補足事項】
・本展図録に関して、日本印刷産業連合会「第55回全国カタログ・ポスター展　図録部門」において、奨励賞を受賞した。

・本展会場内における「龍安寺石庭」の４Ｋ超高精細映像展示に関して、一般社団法人　全日本テレビ番組製作社連盟「第30回ATP賞」の特別賞を受賞した。

展覧会風景

ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	278,801人	250,000人	A		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/7)

【年度計画】
エ　特別展 上海博物館　中国絵画名品展（仮称）（10月8日～12月1日）
中国五代・北宋から明清にいたる中国絵画の流れを、時代と流派を代表する名品によって辿る。（目標来館者数４．５万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	列品管理課長　富田淳

【実績・成果】
・展覧会名　東洋館リニューアルオープン記念　特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」
・会　　期　平成25年10月1日（火）～ 11月24日（日）（48日間）
・会　　場　東洋館8室
・主　　催　東京国立博物館、上海博物館、日本経済新聞社、毎日新聞社
・協　　力　全日本空輸株式会社
・作品件数　40件（うち一級文物18件）
・来館者数　62,378人(目標45,000人・達成率138.6%)
・入場料金　一般600円（500円）、大学生400円（300円）総合文化展観覧料　＊(　)内は20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　91%

初公開、一級文物を含む40件もの名品によって、五代・北宋から明清にいたる約千年の中国絵画の流れをたどることのできるまたとない機会となった。さらに日本には伝来しなかった本場中国ならではの中国絵画の真髄を展示することができた。

【補足事項】
本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。

展覧会風景

ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	62,378人	45,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(5/7)

【年度計画】
オ　「クリーブランド美術館名品展」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）
　　アメリカ・クリーブランド美術館の日本美術コレクションの粋とともに中国、韓国などの優品を展示する。（目標来館者数１２万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」
・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1･2室
・主　　催　東京国立博物館、クリーブランド美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社
・協　　賛　住友ナコ　マテリアル　ハンドリング、日本写真印刷、ハイスター＝エール・マテリアル・ハンドリング
・協　　力　国際交流基金、全日本空輸、日本貨物航空
・作品件数　51件
・来館者数　104,865人（目標120,000人・達成率87.4%）
・入場料金　一般1,000円（800円）、大学生800円（600円）、高校生600円（400円）　＊（　）内は20名以上の団体料金
　「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」との2展共通観覧料金
　一般1,600円（1400円）、大学生1,400円（1200円）、高校生1,000円（800円）　中学生以下無料
　＊（　）内は前売り・20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　57%

　全米屈指の日本美術コレクションを誇るクリーブランド美術館の平安時代から明治時代までの日本絵画の名品を展示して、人や自然の姿が時代ごとにどのように描かれてきたのかを人体表現、花鳥画、山水画、そして物語絵画の4つのテーマで概観することで、日本絵画の特質を示すことができた。

【補足事項】
・本展は、日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」とともに、東京都美術館で開かれた「日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』」とあわせ、３つの展覧会を結ぶプロジェクト「日本美術の祭典」として実施された。
・来館者数は目標に達しなかったが、展示構成にあわせた本展覧会図録、題箋等の調査研究の進展を生かした解説によって、日本絵画の特色並びに特徴を示すことができたため、総合評価をＡとした。

ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
来館者数	104,865人	120,000人	B	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
　年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-6

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(6/7)

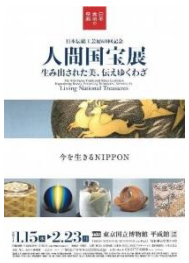
【年度計画】
カ　日本伝統工芸展60回記念特別展―「人間国宝　伝えゆくわざ　生み出された美―」（仮称）（平成26年1月15日～2月23日予定）
重要無形文化財指定制度施行60周年、「日本伝統工芸展」の第60回を記念し、人間国宝が生み出した伝統工芸の清華を展望する。（目標来館者数１２万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉

【実績・成果】
・展覧会名　日本伝統工芸展60回記念「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ―」
・会　　期　平成26年1月15日（水）～ 2月23日（日）（35日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第3･4室
・主　　催　東京国立博物館、文化庁、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社、日本工芸会
・協　　賛　花王、日本写真印刷
・作品件数　145件（うち、国宝6件、重要文化財13件、重要美術品3件）
・来館者数　112,960人(目標120,000人・達成率　94.1%)
・入場料金　一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、高校生600円(400円)＊(　)内は20名以上の団体料金
「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」との2展共通観覧料金
一般1,600円(1400円)、大学生1,400円(1200円)、高校生1,000円(800円)
中学生以下無料　＊(　)内は前売り・20名以上の団体料金.
・アンケート結果　満足度　69%

国宝・重要文化財など歴史的に評価されてきた古典的な工芸と、歴代人間国宝104人の名品を一堂に集め、日本が誇る工芸の「わざ」の美を合わせて展示することで、伝統と現代との造形表現におけるつながりを明らかにすることができた。

【補足事項】
・本展と合わせ、平成館企画展示室において、特集陳列「人間国宝の現在（いま）」を開催し、現在創作活動を続け、後継者の育成を行っている人間国宝56名の作品を展示した。
・本展は、「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美」とともに、東京都美術館で開かれた「日本美術院再興100年 特別展『世紀の日本画』」とあわせ、３つの展覧会を結ぶプロジェクト「日本美術の祭典」として実施された。
・目標値に近い来館者数を得ることができた上に、造形表現上の繋がりを、古美術と現代において生み出された工芸品を合わせて展示することで、明確に示すことができたので総合評価をＡとした。



ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	112,960人	120,000人	B		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(7/7)

【年度計画】
(東京国立博物館)
(年度計画外に実施)
特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」(26年2月11日～3月23日)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 土屋貴裕

【実績・成果】
(東京国立博物館)
・展覧会名　特別展「支倉常長像と南蛮美術―400年前の日欧交流―」
・会　　期　平成26年2月11日（火）～3月23日（日）(36日間)
・会　　場　本館7室
・主　　催　東京国立博物館
・特別協力　文化庁、イタリア大使館
・協　　力　仙台市博物館
・作品件数　3件（うち重要文化財2件)
・来館者数　この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。
　　参考値：56,342人(開催期間中の平常展来館者数)

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、南蛮貿易などを通じて日本とヨーロッパとの交流が深まるなかで、ヨーロッパ人への興味関心やその文物への憧れを表わされた「南蛮人渡来図屏風」や「世界図屏風」をヨーロッパで描かれた「支倉常長像」と合わせて展示したことで、日欧交流における絵画表現にみる彼我の異同を端的に示すことができた。

【補足事項】
本展は当初、年度計画になかったが、急遽開催されることとなった。

ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数(参考値)	56,342人	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/3)

【年度計画】
ア　特別展覧会「狩野山楽･山雪」（平成25年3月30日～5月12日）
桃山時代から江戸初期にかけて京都を舞台に活躍した狩野派の代表的画家 山楽・山雪の画業を紹介する初の大回顧展。（目標来館者数１０万人）

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	前連携協力室長　山下善也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「狩野山楽・山雪」
・会　　期　平成25年3月30日（土）～5月12日（日）（ 39日間）
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、京都新聞社
・作品件数　83件（重要文化財13件）
・来館者数　90,242人（目標100,000人）
・入場料金　一般1,400円（1,200円／1,00円）、大学・高校生900円（700円／600円）、中学・小学生500円（300円／200円）
＊（　）内の料金は前売り／団体20名以上
・アンケート結果　満足度　95％
新発見9件・初公開15件・海外から里帰り4件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する質の高い大回顧展を実現し、数多くの熱心な鑑賞者を呼ぶことができた。ほとんどの来館者について、1点1点の鑑賞にかける時間が予想以上に長く、滞留時間が通常よりかなり長かったことが特筆される。

【補足事項】

なかなか暖かくならなかったこともあって来館者数は目標に達しなかったが、新発見9件・初公開15件・海外から里帰り4件を含む狩野山楽・山雪の代表作が集結する大回顧展を実現。朝日新聞2013年の美術展回顧記事では、明治学院大学文学部芸術科山下祐二教授が第一位に選び、各種ブログ（注）でも第一位に選ばれるなど、高質の展示内容に対し高い評価を受けた。

注
青い日記帳：http://bluediary2.jugem.jp/?eid=3465
Art & Bell by Tora：http://cardiac.exblog.jp/21747844/
Salon of vertigo：
http://salonofvertigo.blogspot.jp/2013_12_01_archive.html

あるYoginiの日常：
http://memeyogini.blog51.fc2.com/blog-entry-1664.html
ほか多数

展覧会ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
来館者数	90,242人	100,000人	B	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（京都国立博物館）
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　特別展観「遊び」(7月13日～8月25日)
　神仏に捧げた歌舞音曲から、酒宴、年中行事、遊山、遊興、琴棋書画、合せもの、子どもの人形遊びまで、京都国立博物館が収蔵する多彩な美術品のなかに「遊び」の姿を追いかける。身近なテーマの下に有名作品に親しみ、隠れた名品に出会う展覧会。(目標来館者数３．５万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室主任研究員　永島明子

【実績・成果】
・展覧会名　特別展観「遊び」
・開催期間　平成25年7月13日(土)～8月25日(日)（38日間）
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（特別展示館）
・主　　催　京都国立博物館
・作品件数　128件　（うち国宝1件、重要文化財6件）
・来館者数　23,659人（目標35,000人）
・入場料金　一般1,000円、大学・高校生700円、中学・小学生 無料
・アンケート結果　満足度84%

　親しみやすいテーマの下に文化財に接し、遊びについても考えることのできる機会を提供するために、収蔵品の活用、関連イベントを充実させた。また、豊臣棄丸所用の玩具船（妙心寺蔵・重文）の模型によるからくり構造の再現等が多数の取材を受け、注目を集めた。

【補足事項】
　猛暑のため来館者数は目標の68%に留まったが、展示空間の新たな演出方法を試み（画像印刷シートを床に貼る等）、アンケート結果では満足度84%を得ることができた。

豊臣棄丸所用の玩具船（妙心寺蔵・重文）の展示の様子

「遊び」展チラシ

展示空間の新たな演出方法の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	23,659人	35,000人	C		―	―	―	―

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　遊びという親しみやすくかつ深淵なテーマの下に、当館が収蔵する多様で質の高い文化財を編纂し、楽しみながら考えることのできる展覧会を実現できた。記念撮影用の看板や実際に触ることのできる模型なども用意し、トークショーや子供向けイベントなど、来館者サービスも充実させた。予算に限りはあるが、広報や展示の演出方法をより充実させて行くことが今後の課題といえよう。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」(10月12日～12月15日)
古来やきものの王者として名高い中国陶磁の中でも、その精緻さ、緻密さにおいて他を圧倒する清時代の陶磁器の名品を鑑賞すると同時に、鎖国をしていた日本へも多くの清朝陶磁がもたらされており、日本陶磁にも大きな影響を与えていたことを紹介する。(目標来館者数３．５万人)

担当部課	学芸部工芸室	事業責任者	室長　尾野善裕

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」
・会　　期　平成25年10月12日(土)～12月15日(日)　55(日間)
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館(特別展示館)
・主　　催　京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
・協　　力　史跡料亭花月、日本香堂
・作品件数　212件(国宝0件・重要文化財0件)
・来館者数　38,929人(目標35,000人)
・入場料金　一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度　87%

江戸時代から明治・大正時代にかけて日本へもたらされた中国清朝陶磁を集大成すると同時に、日中交流の足跡を陶磁器で辿るという展覧会で、過去の展覧会になかった企画性を強く打ち出すことができた。

【補足事項】
・本展覧会は、科学研究助成基金助成金『「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究』(研究代表者　尾野善裕)による研究成果公開の一環として実施。
・休憩スペースにも、展示の流れからは逸脱する館蔵の清朝陶磁を参考出品し、陶磁器という光に対して強い性格の文化財であることに鑑み、観覧者サービスの一環として、その部分に限って写真撮影を許可したところ、観覧者から好評を得た。
・『芸術新潮』誌上で「ありそうでなかった視点に基づく陶磁器展は、近年の発掘・研究に基づく新知見にあふれている」と高く評価された。

展覧会ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	38,929人	35,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/3)

【年度計画】
ア　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」(4月6日～6月2日)
　二上山麓に所在する大和の古代寺院當麻寺。その奥深い信仰の歴史と魅力を、極楽浄土を表した本尊當麻曼荼羅を軸に描き出す。
　(目標来館者数４万人)

担当部課	学芸部美術室	事業責任者	室員　北澤菜月

【実績・成果】
・展覧会名　當麻曼荼羅完成1250年記念特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」
・会　　期　平成25年4月6日(土)～6月2日(日)（51日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社
・後　　援　文化庁、奈良県、葛城市、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　葛城市商工会、シーシーエス、ＪＲ東海、千房、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　159件（うち国宝7件、重要文化財43件）
・来館者数　54,114人(目標40,000人)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度　79％

　南都の諸社寺の文化財中でも公開される機会が稀有な国宝綴織當麻曼荼羅を中心に、當麻寺の信仰を描く初めての特別展として、学術的にも高い評価を得た。また展示方法の工夫や、会場に於けるデジタル画像の使用によって、知識のない観覧者にも満足していただくことができた。

【補足事項】

展覧会風景

展覧会チラシ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	54,114人	40,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　特別展「新しい仏像入門（仮称）」（7月20日～9月16日）
奈良国立博物館に収蔵される館蔵品・寄託品の中から屈指の名品を中心に、仏像・仏画の仏教尊像の諸像を紹介。多彩な仏教美術の魅力に様々な角度からアプローチする。（目標来館者数　５万人）

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「みほとけのかたち　－仏像に会う－」
・会　　期　平成25年7月20日（土）～9月16日（月・祝）（52日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良市、奈良市教育委員会、ＮＨＫ奈良放送局
・特別協力　読売新聞社
・協　　力　ＪＲ東海、奈良県ビジターズビューロー、奈良交通、日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　91件（うち国宝5件、重要文化財42件）
・来館者数　39,232人(目標50,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、中学生以下 無料
・アンケート結果　満足度　93％

仏像の「かたち」という、外観的特徴から紹介していく展示構成と、図解やディスプレイを工夫した会場展示に「初心者にもわかりやすかった」と好評を得られ、仏教美術を愛好する新たな客層の獲得に貢献できた。

【補足事項】
来館者数は目標値に達しなかったが、満足度93％という極めて高いアンケート結果を得ることができた。

展覧会風景

展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	39,232人	50,000人	B		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（奈良国立博物館）
年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　特別展「第６５回正倉院展」(予定)
　正倉院宝庫に伝わる宝物約７０件を展示。(目標来館者数　１８万人)

担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長　内藤　栄

【実績・成果】
・展覧会名　「第６５回正倉院展」
・会　　期　平成25年10月26日(土)～11月11日(月)(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房
・作品件数　66件
・来館者数　246,269人(目標180,000人)
・観覧料金　一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度　70％

　23年ぶり2回目の出陳である漆金薄絵盤、聖武天皇ご遺愛品である平螺鈿背円鏡や鳥毛文書屏風、鹿草木夾纈屏風などの名品のほか、宝物の保存に関わる品々が出陳された。一日平均14,000人ほどの来館者であったが、随所に混雑しない工夫を凝らし、また細部の拡大パネルや技法解説パネルなどを設け、満足度の高い展覧会となった。

【補足事項】

展覧会風景

展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	246,269人 (17日間)	180,000人	A		299,294 (20日間)	294,804 (20日間)	239,581 (17日間)	238,019 (17日間)

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/4)

【年度計画】
ア　「大ベトナム展」(4月16日～6月9日)
　日本で初めて本格的にベトナムの歴史と文化を紹介する
　(目標来館者数３万人)。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課研究員　遠藤啓介

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「大ベトナム展」
・会　　期　平成25年4月16日(火)～6月9日(日)(49日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館、在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館、
　TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、九州ベトナム友好協会
・作品件数　165件(うち重要文化財15件)
・来館者数　71,192人(目標30,000人)
・入場料金　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度82%

　ベトナムの壮大な歴史を紀元前からたどる、日本初の本格的なベトナム展であり、ベトナムの歴史を多角的に、展示品を通して通覧できる画期的な展覧会であった。日本初上陸となるベトナム最大の青銅祭器「銅鼓」をはじめ、国内外の選りすぐりの名品を一堂に公開した。

【補足事項】
・日本の国立博物館で初めてベトナムにスポットをあてた展覧会であった。

・ベトナム国立歴史博物館の全面的な協力のもと、タンロン遺跡保存センター、ベトナム国立民族博物館などから展示品を借用した。

・ベトナムの歴史とつながりが深いインドネシアからジャカルタ国立博物館の陶磁器を借用するなど多方面からのベトナム史を展示することができた。

展覧会風景

展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	71,192人	30,000人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) この展覧会は、日本初の本格的なベトナム展であり、目標を超える多くの来館者を迎えることができた。また、ベトナムでの展覧会につなげることができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/4)

【年度計画】
イ　「中国　王朝の至宝」(7月9日～9月16日)
　　歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく
　　(目標来館者数５万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員　市元　塁

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「中国　王朝の至宝」
・会　　期　平成25年7月9日(火)～9月16日(月・祝)　(62日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、毎日新聞社、
　　西日本新聞社
・特別協力　太宰府天満宮
・作品件数　167件(うち1級文物100件)
・来館者数　77,554人(目標50,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度87%

　中国王朝史は複雑であるとの認識で敬遠される向きがあるため、これに対応すべく、解説文の内容や教育普及事業及び会場の空間構成に力をいれた。その結果、分かり易くかつ作品の魅力が伝わる展示空間となり、来場者にはおおむね好評を得た。

【補足事項】
・日中国交正常化40周年の冠事業にふさわしい貴重な作品群の展示を通して、悠久の歴史を体感できる機会を設けることができた。
・会期が夏休みの時期と重なることから、子ども向けのガイドブックやワークショップを開催したことで、幅広い層に受け入れられる展示となった。
・講演会や紙面連載、テレビ出演、動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えることに努めた。

展覧会風景

展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	77,554人	50,000人	S		―	―	―	―

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) 迫力のあるポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、酷暑といわれた時期にあって目標を上回る入場者数を得ることができ、高い満足度を得た。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/4)

【年度計画】
ウ　「尾張徳川家の至宝」(10月12日～12月8日)
　　尾張徳川家に伝来した大名家の什宝、武器武具等を紹介する
　　(目標来館者数５万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　酒井芳司

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「尾張徳川家の至宝」
・会　　期　平成25年10月12日(土)～12月8日(日)　(50日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、テレビ西日本、TVQ九州放送、徳川美術館
・作品件数　226件(うち国宝5件、重要文化財12件、重要美術品6件)
・来館者数　139,448人（目標50,000人）
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　満足度85%

　尾張徳川家は、徳川家康の9男・義直（1600-1650）を初代とする御三家筆頭の名門大名で、名古屋城を居城とし、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇っていた。徳川美術館は、尾張徳川家に伝来した什宝を中心に1万数千件を収蔵している。江戸時代における最高水準の大名文化を伝える道具類の清華を一堂にみることができる機会となった。

【補足事項】
・数ある江戸時代の大名家のなかで最高の家格を誇った尾張徳川家には、徳川家康の遺品を頂点とする格調高い大名道具が数多く伝来した。本展は徳川美術館の協力を得て、まとまった形で最高水準の大名文化の遺品をみることができるまたとない機会となった。
・徳川家康の遺品には、足利将軍家、織田信長、豊臣秀吉の遺愛の品が多く含まれている。この展覧会では天下人が愛した名品の数々を紹介することができた。
・徳川美術館の収蔵品を代表する二つの国宝、源氏物語絵巻と初音の調度は徳川美術館でも期間限定でしか展示されない名品である。この二件の国宝を、期間を限定して特別に公開することができた。

展覧会風景

展覧会ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	139,448人	50,000人	S		―	―	―	―

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)
	国宝源氏物語絵巻を合計4週間限定で特別に公開することができ、また目標を超える来館者を迎えることができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/4)

【年度計画】
エ　「国宝　大神社展」（平成26年1月15日～3月9日）
　神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観する。
　（目標来館者数７万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　楠井隆志

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「国宝 大神社展」
・会　　期　平成26年1月15日(水)～3月9日(日)　(47日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社
・作品件数　165件(うち国宝57件、重要文化財65件)
・来館者数　89,561人(目標70,000人)
・入場料金　一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
・アンケート結果　87%
　25年4月から6月にかけて開催された東京展に引き続き、26年１月15日から3月9日かけて、特別展「国宝 大神社展」福岡展を開催した。九州では初めて本格的かつ総合的に開催された神道に関する文化財展となったほか、九州初公開の文化財も全体の7割を超えているため大きな関心と話題が寄せられ、当初目標を上回る来場者があった。

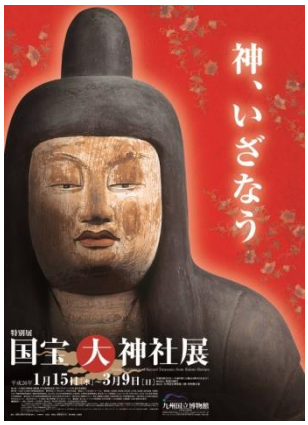
【補足事項】
・平成 25 年に行われた伊勢神宮第 62 回式年遷宮を機に、神社本庁をはじめ日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に展観した。「第１章　祀りのはじまり」、「第２章　古神宝」、「第３章　神社の風景」、「第４章　祭りのにぎわい」、「第５章　伝世の名品」、「第６章　神々の姿」の６章で構成した。

・これまでにも個々の神社や古神宝・神仏習合をテーマとした展覧会は開催されてきたが、今回は神道美術を総合的に展観する、過去最大規模の展覧会となり、来場者には日本の歴史と文化と信仰に育まれた神道美術の粋を鑑賞していただく格好の機会となった。

・本展覧会の教育普及関連事業として、街で見かけた狛犬の画像を WEB 投稿してもらう「狛犬目撃情報」を実施した。投稿情報はウェブサイト上だけでなく、館内でも紹介した。また、会場入口付近ではおみくじに倣った「神社まめちしき」の配布を行い、展示作品と関連のある豆知識を提供し、幅広い層に対する本展の集客及び神社文化の理解促進を試みた。

・本展覧会会期中に、神社本庁総長・石清水八幡宮宮司の田中恆清氏の特別講演会、研究員による連続講座（「国宝　大神社展」の壺）２回、県内各地での地域講演会 3 回を実施し、好評を博すとともに展示内容への理解を深める機会とした。

・また会期中の関連事業として、館内ホール等で各地の神社に伝承される神楽や舞なども上演され、神社と関連深い伝統芸能の紹介を積極的に展開した。



展覧会ポスター

展覧会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	89,561人	70,000人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年2～3回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　③ 海外展

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)　海外展「青山杉雨のコレクションと書」(4月19日～5月26日)
　　会場：上海博物館（中華人民共和国）
　　書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の生誕100年を記念して、その足跡を回顧する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課長　富田淳

【実績・成果】
(東京国立博物館)
・展覧会名　海外展「青山杉雨のコレクションと書」
・会　　期　平成25年4月20日（土）～7月2日（火）(73日間)
・会　　場　上海博物館（中華人民共和国）　第二展庁
・主　　催　上海博物館、東京国立博物館、読売新聞社
・特別協力　謙慎書道会
・作品件数　80件
・来館者数　364,298人

　昭和から平成まで活躍した書家・青山杉雨が創作活動に生かすため収蔵した優れた中国書画の作品とともに、杉雨の生み出した伝統的な書から新しい表現まで多彩な作品を展示することで、中国において日本を代表する書家の業績を明らかにすることができた。

【補足事項】
　開催期間中、たいへん好評を博したため、当初の会期は25年5月26日までの予定であったが、上海博物館の要請に応えて7月2日まで延長した。

ポスター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	364,298人	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)日本の書家の作品展が会期延長の要望が出るほど好評を博し、日本文化の一端を広く紹介できたため。

【中期計画記載事項】
　海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　③ 海外展

【年度計画】
（年度計外に実施）
文化庁主催海外展「日本文化展」（26年1月16日～3月9日）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　岸本圭

【実績・成果】
・展覧会名　文化庁主催海外展「日本文化展」
・会　　期　平成 26 年 1 月 16 日（木）～3 月 9 日（日）（51 日間）
・会　　場　ベトナム国立歴史博物館
・主　　催　文化庁、九州国立博物館・福岡県、ベトナム国立歴史博物館
・作品件数　69 件（うち重要文化財 7 件）
・来館者数　約 30,000 人
・入場料金　40,000 ドン（約 200 円）

ベトナムで日本文化を体系的に展示する初の取り組みであった。仏教文化や朱印船貿易、元寇などベトナムとの関連が深い内容を中心に 9 のテーマを設定し、日本文化を概観できる展覧会であった。関連事業として、博物館ボランティアが主体となって日本文化を紹介するワークショップを開催した。

【補足事項】

・日本側は九州国立博物館からの他、東京国立博物館、文化庁などから作品を借用し、計 53 件の作品を出品した。

・昭和 18 年から行われた東京帝室博物館(現東京国立博物館)とフランス極東学院の美術交換に際し、フランス極東学院に贈られた日本の文化財 16 点について、ベトナム国立歴史博物館より出品された。

・日本の伝統的な遊びを紹介するワークショップを開催し、幅広い年齢層の多くの参加者があり盛況であったと同時に、両館の博物館ボランティアの交流も図ることができた。

展示館前で行われた開会式

展示室風景

【定量的評価】項目	25 年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
来館者数	約 30,000 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（九州国立博物館）
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/3)

【年度計画】(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。
○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」(7月17日～8月25日)
○体験型プログラムの実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。
・本館19室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。
・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。
○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成25年3月19日～4月14日)を実施する。
2) 3)(略)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　伊藤信二

【実績・成果】(東京国立博物館)
1)以下のように、総合文化展の状況に応じ歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。
・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化への興味関心をより高めることができた。
・本館19室における「みどりのライオン」は、当初の予定では26年3月の本館1階リニューアルオープン時より実施予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となった。改修工事期間中、プログラムを事前申込制に変更して、小講堂等で開催。他の申込制ワークショップの回数や人数も予定より増やして行った。
・本館地下、東洋館2室、6室にて体験型プログラム、列品解説、ワークショップ等を行った。
・ミュージアムシアターや小講堂においては列品解説、ワークショップ等を行った。
○特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅳ」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた(25年7月17日～8月25日)
○体験型プログラムの実施
・総合文化展、特別展に関連したファミリー向けのギャラリートーク、アクティビティを18回実施した。
・本館19室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」等を26年3月より行う予定であったが、本館1階リニューアルオープンが26年4月となったため開始が遅れた。そこで、3月に予定していた桜ワークショップの内容を当初案のお皿作りから、より手軽に参加できるぬり絵に変更し、19室で予定していた企画同様、事前申込不要のハンズオン体験として平成館ラウンジにて開催した。
・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。(26年1月2日、3日)
・東洋館2室で体験型プログラム「旅の案内所」、6室で体験型プログラム「アジアの占い体験」を通年実施した。
○「博物館でお花見を」(25年3月19日～4月14日)では会期中「花見で一句」には481の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。
○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。

【補足事項】(東京国立博物館)
1)26年4月(予定)より本館1階がリニューアルオープンし、本館19室にて体験型プログラム等を再開できる見込みである。
○体験型プログラム
総合文化展関連ワークショップおよび関連事業23回802人、特別展関連ワークショップおよび関連事業5回767人。
・正月のアクティビティ「トーハクうま三昧」26年1月2日・3日　2,284人
・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い体験」通年　38,009人

体験型プログラム「アジアの占い体験」
(東洋館6室)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)(略)
2)学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象)。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象)。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。
3)(略)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数43校、団体利用を含み21,069名の学生が本制度を利用し入館した。
(東京国立博物館)
2)学校との連携事業を計画通り実施した。
・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。
・職場体験として、23校82人を受け入れた。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催:東京藝術大学)を25年7月31日～8月2日の3日間開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、学校団体での博物館利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。
・教員鑑賞会・ガイダンスは4回実施し、計433人が参加した。

【補足事項】
2)スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、198校6475人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を19校439人を対象に行った。
○26年4月(予定)の本館1階がリニューアルオープンし、展示室に近い本館地下にレクチャースペース、ワークショップスペース及びかねてより要望の多い学校用ロッカー(予約制)が利用可能となる見込みである、学校団体での利用等がより一層期待できる。

スクールプログラム
「はじめての東博」実施の様子
（本館地下教育スペース）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	43校	－	－		35	35	37	38

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(3/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)2)(略)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。
(講演会等の目標)　参加者数　計7,830人(実施回数　計77回程度)
・講演会　参加者数3,500人(実施回数20回程度)
・列品解説等　参加者数4,000人(実施回数55回程度)
・連続講座　参加者数　250人(実施回数 1回程度)
・公開講座　参加者数　80人(実施回数 1回程度)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　丸山士郎

【実績・成果】
(東京国立博物館)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。
参加者数　計15,777人(実施回数　計131回)
・講演会　参加者数7,184人(実施回数30回)
うち月例講演会1,951人(12回)、記念講演会3,368人(11回)、テーマ別講演会1,709人(6回)、その他講演会156人(1回)
・列品解説等　参加者数 8,205人(実施回数98回)
・連続講座　参加者数 354人(実施回数1回)
・公開講座　参加者数 34人(実施回数2回)

【補足事項】
・その他展示に関連する事業1回・27人
25年5月19日　恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業
「上野の山でサルめぐり」　27人

※講演会等の参加者数が目標値を大幅に上回った理由
講演会及び列品解説のテーマ設定がお客様のニーズに非常によく合致したこと、人気の列品解説を大講堂で開催したこと、また当初の年度計画にはなかった特別展に関連するギャラリートーク（列品解説）を行ったことにより参加者数が増加した。

※公開講座の参加者数が目標値を下回った理由
実際の修復現場に入ることに伴う事故の防止及び修復専門スタッフとお客様との交流の充実を図るため、参加人数の見直しを行い、１回の定員数を80名から20名へ変更し、実施回数を2回としたため。

列品解説の様子
(25年4月、会場：前庭)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
講演会等の参加者数	15,777 人	7,830 人	S		12,546	13,319	12,664	13,193
実施回数	131 回	77 回	S		153	126	112	126
うち								
講演会参加者数	7,184 人	3,500 人	S	経	5,600	9,290	8,224	6,952
実施回数	30 回	20 回	S	年	24	39	32	31
列品解説等参加者数	8,205 人	4,000 人	S	変	6,550	3,659	3,963	5,805
実施回数	98 回	55 回	S	化	126	83	76	90
連続講座参加者数	354 人	250 人	A		320	278	380	303
実施回数	1 回	1 回	A		1	1	1	1
公開講座参加者数	34 人	80 人	C		76	92	97	133
実施回数	2 回	1 回	S		2	3	3	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(京都国立博物館)
1)展覧会内容および展示作品への理解を深めるための事業を実施する。
・「記念講演会」「土曜講座」を実施する。
・鑑賞ガイドを発行する。
・小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施する。
・小中学生向けワークシートを発行する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
2)歴史及び文化財への理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・テーマを定めた一般向けの連続講座として「夏期講座」を開講する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・文化財への関心を高めるワークショップを実施する。
3)教育諸機関との連携事業を推進する。
・京都市内４美術館・博物館が連携する「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を開講する。
・社会科教員のための向上講座を開講する。
(講演会等の目標) 参加者数　計2,240人 (実施回数計13回程度)
・記念講演会　参加者数150人 (実施回数1回程度)
・土曜講座　参加者数1,400人 (実施回数10回程度)
・夏期講座　参加者数　570人 (実施回数1回(3日間)程度)
・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」参加者数　120人 (実施回数1回程度)

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　山川　暁

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。
(京都国立博物館)
1)・「記念講演会」(1回・190人)・「土曜講座」(10回・1,257人)を実施した
・小中学生向け「ワークシート」を一般観覧者向けの鑑賞ガイドとしても活用した。
・「少年少女博物館くらぶ」(2回・68人)を開催した。
・小中学生向け「ワークシート」(20,000部)を発行した。
・「博物館ディクショナリー」(7,000部)を発行した。
2)・「夏期講座(古社寺と文化財)」(１回・219人)を開催した。
・「文化財に親しむ授業」(7回・435人)を実施した。
・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加しワークショップを行った。(2回・1,300人)
3)・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(1回・157人)を土曜講座と合同で開催した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・30人)を実施した。

【補足事項】
・講座・講演会については、展示館建替工事のため外部の施設を借りて実施した。土曜講座は26年度末で1,748回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。夏期講座は遠方から泊まりがけで参加する聴講者も多数あり、見学会も合わせて好評を博している。
・ワークシートや博物館ディクショナリーは、子どもだけでなく大人にも入門的な解説書として好評で、モニターアンケートでも評価が高かった。
・年度計画にはなかったが、東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、福島、仙台にてワークショップを実施。また開催してほしいとの要望が多数あった。
※講演会等の実施回数が目標値を大幅に上回った理由
・特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」において、当初予定になかったギャラリートークを実施したため。

「こども☆ひかりプロジェクト」ワークショップの様子

【次ページへ続く】

【書式A】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　2212

【前ページから続く】

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
講演会等の参加者数	2,062人	1,860人 （延べ2,240人）	A		3,002	2,313	1,450	3,150
実施回数	21回	13回	S		21	17	15	19
うち土曜講座　参加者数	1,257人	1,400人	B		2,791	2,076	1,199	2,682
実施回数	10回	10回	A		19	15	13	16
うち記念講演会　参加者数	190人	150人	A		－	－	－	215
実施回数	1回	1回	A		－	－	－	1
うち夏期講座　参加者数	219人	190人 （延べ570人）	A		179	205	193	213
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座		－						
参加者数	30人	－			32	32	58	40
実施回数	1回	－		経	1	1	1	1
うちギャラリートーク　参加者数	366人	－		年	－	－	－	－
実施回数	8回	－		変	－	－	－	－
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」				化				
（土曜講座の内数）　参加者数	157人	120人	A		－	－	158	119
実施回数	1回	1回	A		－	－	1	1
少年少女博物館くらぶ　参加者数	68人	－			19	20	75	85
実施回数	2回	－			1	1	2	2
文化財に親しむ授業　参加者数	435人	－			390	406	552	613
実施回数	7回	－			2	5	7	8
ワークショップ（こどもひかり）参加者数	1,300人	－			－	－	－	－
実施回数	2回	－			－	－	－	－
ワークシート　発行部数	20,000部	－			3,000	15,000	30,000	110,000
発行回数	1回	－			1	1	1	3
博物館ディクショナリー発行部数	7,000部	－			5,000	5,000	5,000	5,000
発行回数	2回	－			1	1	1	1

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。
・奈良市内の小学校５年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
2)(略)
3)奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。

担当部課	総務課渉外室企画推進係 学芸部教育室	事業責任者	係長　石田義則 室長　岩井共二

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は26校、大学との連携を継続した。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。
・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。
・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生33校、合計2,199名に対して実施した。
・中学2年生の職場体験を3校9人受け入れた。
3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月27日に行い、約150人の参加者を得た。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。

【補足事項】

小学生に向けた世界遺産学習の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	26校	－	－		27	28	28	27

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/2)

【年度計画】　(4館共通) 1)(略)
(奈良国立博物館) 1),3)～5)(略)
2)講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。
(講演会等の目標) 参加者数　計2,600人 (実施回数　計27回程度)
・特別展等講座　　参加者数1,500人 (実施回数14回程度)
・夏季講座　　参加者数　500人 (実施回数 1回程度)
・サンデートーク　参加者数　600人 (実施回数12回程度)

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】(奈良国立博物館)
2)講座等の開催
サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計950人の参加があり、アンケート結果では85%の平均満足度が得られた。
・公開講座は、3つの特別展及び2つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計11回、1,341人の参加があり、平均満足度は85%を得た。その他、特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関連して学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」を実施した。
・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2013　鑑真和上と正倉院宝物」と題して25年10月27日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。192人の参加を得、満足度は89%であった。
・夏季講座は、今年は第42回目を迎え、奈良県文化会館で開催した。「仏教美術へのいざない」と題し、25年8月20日～22日の3日間に実施、講師は計9人、587人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を26年2月16日に実施し、38人の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開は、26年2月13日に3回実施し、計117人の参加があった。
○講演会等の実績　総計26回・参加者3,219人
特別展等講座13回・参加者1,682人 (うち公開講座11回・1,341人、シンポジウム2回・341人)、夏季講座1回(3日間)・参加者587人、サンデートーク12回・参加者950人

【補足事項】

学術シンポジウム「綴織當麻曼荼羅」
会場風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
講演会等の参加者数	3,219人	2,600人	A		3,421	3,349	3,006	3,454
実施回数	26回	27回	B		33	28	28	29
うち特別展等講座参加者数	1,682人	1,500人	A		2,043	2,172	1,839	2,172
実施数	13回	14回	B		16	15	15	16
うち夏季講座　参加者数	587人	500人	A		391	556	522	438
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	950人	600人	S		584	621	645	844
実施数	12回	12回	A		11	12	12	12

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
2)～9)（略）

担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業を継続して実施した。
・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、本年度新たに錫を使用した鋳造体験「銅鐸をつくってみよう」、「銅鏡をつくってみよう」、「アイヌのボードゲーム　ウコニロシキ」、「アイヌのシカ笛をつくってみよう」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに実施した。
・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。
・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」、「あじぎゃら」、「ディスプレイ」において特集展示を行った。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)・鋳造体験プログラムは神戸市立博物館との協働により実現した。
・アイヌ関連プログラムはトピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」開催に伴う調査研究の成果であった。
・「あじ庵」における特集展示は「桃の節句」「ベトナム」「中国の吉祥文様」「インドネシアのワヤン」の4回
・「あじぎゃら」における特集展示は「はらのなかのはらっぱで」「やきもの動物園」「郷土人形-うそ・天神さま・午」の3回
・ディスプレイにおける特集展示は「ベトナム」「中国の日常生活」「アジアの午」の3回
・プログラム開発や特集展示は、特別展やトピック展示にあわせた内容で実施している。
・小学校児童向けに「わくわく通信」を年間5回発行し、体験プログラム等の告知を行った。配布地域は福岡市を含む博物館近隣14市町、毎回136,000枚。募集プログラムは毎回定員に達し、臨時に回数を増やす等の措置を行っており、告知の効果は高いと思われる。
・体験型展示室「あじっぱ」の一角にある「BOXキットコーナー」は主として工作系の体験を提供する場であり、体験学習プログラム「韓国のふろしき ポシャギをはり絵でデザインしよう」、「日本の着物 もんようスタンプ」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」等を体験できる。休日は幼児等を含む家族連れでにぎわっている。

体験型展示室「あじっぱ」
BOXキットコーナーのにぎわい

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)(略)
2)学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
3)～8)(略)
9)放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　篠﨑孝司

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。
(九州国立博物館)
2)・中学生の職場体験を17校（延べ38日間）受け入れ、博物館の様々な業務を体験する機会を提供した。
・高校生「ジュニア学芸員」による全7回の継続プログラムを実施した。
・高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員と同経験10年経過者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員に対し体験研修を行った。
・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を実施した。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の活用を図り、貸出を行った。
・出前講座や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。
9)放送大学の面接授業を実施した。(「文化財の保存と修復」25年12月7日、8日)

【補足事項】
(4館共通)
1)大学等との連携を継続させるため、本年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。
加入校内訳(大学13校、短期大学4校、専門学校1校、高等学校6校)
・会員校の学園祭に協賛した。(5校)
・特典の利用として文化交流展を3,857人（学生3,644人、教職員213人)、特別展を2,045人（学生1,797人、教職員248人）が観覧した。また、パスポートを2,104人（学生1,944人、教職員160人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。
(九州国立博物館)
2)・ジュニア学芸員の募集にあたっては、本年度から対象にキャンパスメンバーズ校を追加し、希望生徒の推薦を依頼した。
9)・放送大学面接授業受講者は50名。保存修復施設等の見学を含むカリキュラムを構成し、当館の活動に対する理解促進に努めた。

職場体験で展示体験する中学生

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
キャンパスメンバーズ加入校数	24校	－	－		29	27	28	24

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(3/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)2)(略)
3)シンポジウムを開催する。
4)特別展記念講演会を開催する。
5)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
6)ミュージアムトークを随時実施する。
7)文化施設等へ講師を派遣する。
8)特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。
9)(略)
(講演会等の目標)　参加者数　計3,100人（実施回数計54回程度）
・特別展記念講演会　　参加者数　600人（実施回数 4回程度）
・講演及びシンポジウム　参加者数1,300人（実施回数10回程度）
・ミュージアムトーク　　参加者数1,200人（実施回数40回程度）

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長　臺信祐爾 教育普及室主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(九州国立博物館)
3) 国際シンポジウム「ベトナムに恋して」を開催した。(25年10月5日開催)
4) 本年度は特別展記念講演会を5回開催した。
5) 本年度は講演会等を38回開催し、連続講座も開催した。
6) 定例のミュージアムトークを47回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。
7) 文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等)
8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
5)特別展やトピック展において、関係する共催者等の要請により、当初の想定以上に講演会を実施することとなったため、目標値を大幅に上回った。
7)、8) 館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
25年6月8日(土):仙台市農業園芸センター(参加約200人)
25年6月9日(日):福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館(参加約200人)
25年10月12日(土):熊本市現代美術館(参加約200人)
25年12月22(日)～23日(月):せんだいミュージアムストリート(参加約200人)　等

仙台市農業園芸センターでの様子
女性は奥山仙台市長

【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
講演会等の参加者数		7,276人	3,100人	S		6,806	3,996	7,833	8,354
実施回数		90回	54回	S		73	64	89	102
うち特別展記念講演会	参加者数	1,108人	600人	S		1,622	1,410	1,500	966
	実施回数	5回	4回	A		6	9	7	5
うち講演及びシンポジウム	参加者数	4,450人	1,300人	S		3,899	1,266	4,592	4,918
	実施回数	38回	10回	S		25	11	39	45
うちミュージアムトーク	参加者数	1,718人	1,200人	A		1,285	1,320	1,741	2,470
	実施回数	47回	40回	A		42	44	43	52

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。
2)点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
3)自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。
5)「東京芸術大学学生ボランティア」の活動を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
1)館内各所での案内、みどりのライオン紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。次年度の活動に向けてスクールプログラム班を立ち上げた。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。
3)新規2グループを含めた全15の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに1グループの立ち上げ準備を開始した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。
4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見を」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動見学ツアーを実施した。
5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク(研究発表)班5人と、調査研究班12人による活動を行った。

【補足事項】
2)バリアフリー活動として、点字パンフレットを12冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月1回、全6回)を実施した。
3)・各自主企画グループ及びボランティア活動見学ツアー等を実施した。(422回10,511人)
・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップ＆ハイライトコラボ、近代美術ガイド、東洋館ツアー）が活動した。また、新たに刀剣武器武具グループ(仮称)を立ち上げた。
・生涯学習ボランティアに対する研修を行った。(29回、解説会6回)
5)今年度より「東京芸術大学学生ボランティア」を「東京藝術大学大学院インターンシップ」と名称を変更。東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班は平成25・26年度2ヵ年での活動としており、25年度は学芸研究部調査研究課の協力の下、作品の調査研究及び工程見本制作を行った。
同インターンシップギャラリートーク班は、総合文化展の作品解説を実施した。(ギャラリートーク29回949人)

生涯学習ボランティアによる「触知図」を使った館内案内とバリアフリー活動

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ボランティア数	169人	－	－		163	159	169	170
うち生涯学習ボランティア登録者数	152人	－	－		155	152	163	164
うち東京藝術大学大学院インターンシップ数	17人	－	－		8	7	6	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)新平常展示館の新装開館に向け、新規ボランティア事業を立ち上げるための準備を行うとともに、新平常展示館でのボランティア活動を開始する。
2)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
3)文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　暁

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)平成知新館（新平常展示館）の開館が来年度に延期されたため活動開始は持ち越されたが、ボランティア募集チラシ作成など諸準備を行った。新規ボランティア事業の核となるミュージアム・カートの作成に向け、調査及び教材の作成を行った。
2)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(25人)
3)・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回)
　・文化財ソムリエによる、京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(7回)
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。

【補足事項】
1)募集チラシ（8000枚)、他館の事例調査（34件)、カート（3台)、カートに配備する教材の作成（14件)
　ミュージアム・カートとは、文化財のレプリカや教材見本をカートに設置し、手で触れたりナビゲーターと対話したりすることで、展示作品への理解を深めるためのハンズ・オン教材である。

2)各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。

3)「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアに対して、当館研究員がスクーリングを実施した。教材となる文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、文化財ソムリエが授業案や教材を作成するにあたって、議論を促し、指導・助言を行った。

文化財ソムリエへのスクーリング

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
ボランティア数	45人	－	－	経年変化	35	40	64	45
うち調査・研究支援ボランティア数	25人	－	－		10	15	22	21
うち文化財ソムリエ数	13人	－	－		7	7	14	16
うちらくご博物館学生ボランティア数	7人	－	－		－	－	10	8
（うち京都橘大学学生によるアンケートボランティア数）	－	－	－		18	18	18	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(奈良国立博物館)
1)ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。
2)ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
3)勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長　清水　功

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)ボランティアの新制度が発足して2年目になり、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。奈良市教育委員会との連携により、世界遺産学習として奈良市の33校の小学5年生（2,199人）を受け入れ、同じ内容で県内外の小学生～高校生（28校，2,251名）を受け入れた。
2)ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。
正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。
3)ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。チーム力と知識の向上のため、毎月テーマを決めてグループで発表を行った。解説グループの勉強会では、オブザーバーとして学芸員が立会、指導した。
4)ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園や仏教美術資料研究センターの案内ツアーを実施した。
プログラムの企画立案にあたって、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をした。

【補足事項】
1)・特別展「みほとけのかたち－仏像に会う」では、解説グループと世界遺産グループが連携して、来館者の解説や案内を行った。
・正倉院展講堂解説では、解説グループ・世界遺産グループ・サポートグループの3つが協力して、成果を上げた。
・他施設のボランティアとの交流会を実施し、スライドでボランティア活動を紹介し、当館の展示や施設の案内を行った。
・世界遺産学習では、同じ内容を外国語（英語・韓国語）でも行った。
・英語や韓国語で、名品展解説を行った。
2)・ボランティア間の通信誌「ぶりっじ」を、2ヵ月ごとに発行した。
3)・ボランティアの企画立案による「茶室庭園案内ツアー」を25年4月～5月、25年11月～12月に、26年3月に、計6回実施した。「仏教美術資料研究センター見学ツアー」を25年9月に、26年3月に、合計2回実施した。実施に当たって、数回のリハーサルを行い、万全を期した。
・特別陳列「お水取り」のツアー解説を26年3月に、実施した。
・ボランティア間の交流と研修を兼ねて、社寺旧跡見学会を25年6月と9月に実施した。
・子どものための、「なら仏像館」ガイド手引書を、ボランティア室指導のもとに作成した。
・子どものための、名品展講堂解説のスライドと原稿を、教育室の協力と指導のもとに作成した。

ボランティア活動風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ボランティア数	114人	－	－		98	85	87	121
うち世界遺産グループ数	41人	－	－		－	－	－	42
うち解説グループ数	39人	－	－		－	－	－	43
うちサポートグループ数	34人	－	－		－	－	－	36

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1ボランティア活動の支援

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
2)ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員　八尋智之

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。
2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。
3)各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、グループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行った。

【補足事項】
1)第3期ボランティアを中心に、第2期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・各期ボランティア数（25年度当初）
第2期ボランティア（20年4月から活動）数　124人
第3期ボランティア（23年4月から活動）数　163人
・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均延べ1000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM活動。土日を中心とした手話通訳による案内。
2)・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
〔主な研修〕
障がい者接遇・英語解説講座・古代韓国歴史講座・古文書講座・IPM関連講座
〔主な館外研修先〕
壱岐市立一支国博物館・熊本市現代美術館・兵庫県立人と自然の博物館
兵庫県立考古博物館・求菩提資料館・長崎ペンギン水族館・宗像大社宝物館 等
3)・企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。
〔実施したイベント等〕
G.W学生イベント（25年5月）・名古屋市立大学と共催イベント（25年10月）・能装束ワークショップ（26年1月）・七夕飾り（25年8月）・書き初め（26年1月）

視覚障がい者対応の様子
（３Ｄコピー装置での出力物に触れる）

名古屋の大学生との
共催イベントの様子
（貝合わせのワークショップ）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
ボランティア数	287人	－	－	経年変化	345	288	355	308
うち展示解説ボランティア数	75人	－	－		68	63	84	77
うち教育普及ボランティア数	39人	－	－		62	53	48	41
うち館内案内ボランティア数	26人	－	－		34	32	31	29
うち外国語案内ボランティア数	63人	－	－		71	53	89	69
うち環境ボランティア数	29人	－	－		32	28	38	35
うちイベントボランティア数	6人	－	－		11	10	10	6
うち資料整理ボランティア数	19人	－	－		19	18	20	19
うちサポートボランティア数	22人	－	－		29	19	25	23
うち学生ボランティア数	8人	－	－		19	12	10	9

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】(4館共通)
1)26年4月の消費税率改定による料金の改定に伴い、これまで独立していた賛助会・友の会・パスポートの会員制度を一元化することで、支援者の選択の幅を広げ、継続的に支援しやすい体系とすべく整備を進めた（26年4月導入予定)。
2)友の会入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。賛助会会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。
3)地域との連携、ＰＲにより認知度向上に努めた。
4)ＪＲ、地下鉄などに総合文化展、特別展のポスターの掲示、チラシの設置を図るなど、広告活動の充実に努めた。
5)特別展「国宝 大神社展」、「京都－洛中洛外図と障壁画の美」において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)企業へのＰＲ活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。
2)上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催)、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。

【補足事項】
(4館共通)
1)継続案内を積極的に行い、リピーターの拡大に努めた。
2)東大寺講演会では友の会会員向けにＤＭ発送を行い、応募の際にも優先当選枠を設けた。
3)特別展におけるマスコミ各社との共催の他、上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン連絡協議会等に参加し、共同事業の実施や、ＰＲ活動への協力を得るなどして、博物館活動の理解向上に努めた。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会顕彰板の前に寄附金による購入文化財を紹介するパネルを設置し、当館からの感謝の意を表するとともに、文化財の保護に関心の高い来館者に新規加入を促した結果、個人の賛助会維持会員が増加した。

上野ミュージアムウィーク
パンフレット

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
友の会会員数	1,586人	－	－	経年変化	2,085	1,412	1,802	1,570
パスポート会員数	16,474人	－	－		21,598	13,733	17,672	16,569
賛助会員数	379件	－	－		218	235	292	332
うち特別会員数	20団体	－	－		16	16	19	20
うち維持会員数(団体)	44団体	－	－		24	28	35	43
(個人)	315人	－	－		178	191	238	269

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 企画室長　宮川禎一

【実績・成果】(4館共通)
1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。
5)22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(3回)・見学会(3回)・会報(3回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
また、地域・機関との連携事業に協力した。

【補足事項】
(4館共通)
2)「パスポート」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が10%引きで購入できる等の特典がある。
3)・人間国宝　桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は2回実施した。
・アメリカンエキスプレス会員及びみずほプレミアムクラブを対象に茶会を開催し、文化財保護基金の周知につとめた。
4)・全館休館期間中に、京阪電気鉄道株式会社の特別協力による音楽イベント「音燈華」(6月1日開催) を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出のもと、DEPAPEPE(デパペペ)が音楽を奏で、大盛況であった。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)・「京都市内4館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の4館が連携し、広報のための合同パンフレットを59,500部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実を図るとともに、「友の会」の相互協力を行った。

京都市内4館連携合同パンフレット

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
パスポート会員数	2,295人	－	－		2,612	2,468	2,667	3,064
ミュージアム・パートナー会員数	－件	－	－		－	1	2	－
清風会会員数	336人	－	－		389	391	373	353
うち賛助会員数	30人	－	－		31	34	34	33
うち特別会員数	58人	－	－		63	61	61	60
うち普通会員数	248人	－	－		295	296	278	260

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
(奈良国立博物館)
1)支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
2)支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。

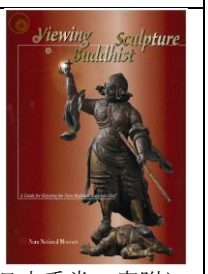
担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)パスポート会員　会員数2,598人(一般2,504人、学生73人、家族21人)
2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。
3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。
4)近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、大阪市交通局とタイアップし、特別展の広報を行った。
5)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員　29団体41人(特別支援会員：5団体、特別会員：4団体、一般会員(個人)：41人、(団体)：20団体)
2)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。
　奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2013」、「ライトアッププロムナード・なら2013」、「なら燈花会」、「光のオルゴールinライトアッププロムナード」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。
(奈良国立博物館)
1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。

【補足事項】
・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。

ムジークフェストなら2013

光のオルゴールinライトアッププロムナード



日本香堂の寄附により作成した『仏像を観る』(英語版) 表紙

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
パスポート会員数	2,598人	－	－	経	2,799	3,180	2,615	2,486
賛助会員数	70件	－	－	年	56	64	65	68
うち特別支援会員数	5団体	－	－	変	5	4	5	5
うち特別会員数	4団体	－	－	化	2	4	5	5
うち一般会員数	61件	－	－		49	56	55	58

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　田端幸朋 事務主査　藤﨑秀典

【実績・成果】
1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。
3)企業等と連携し、広報活動を行った。
4)特別展等においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。
5)展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
1)「年間パスポート」の広告を実施した。(西日本鉄道ドアステッカー、25年8月1日～26年1月31日、ウェブサイトのトップページにバナー広告掲載（25年8月1日～)、館内券売所にも貼付)
4)・特別展について、ＪＲ、西日本鉄道とのタイアップにより広報活動を実施した。
・西日本鉄道、初の観光列車「旅人－たびと－」の運行開始。(26年3月22日)当館なども車体に描かれ、車内にはパンフレット等も配置し、広報の充実に努めた。

「年間パスポート」の広告

(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベント
・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施した。
・開館以来、8年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山をエントランスホールで展示した。この事業は、西日本新聞社と九州国立博物館振興財団との共同事業として実施した。
・内容を勘案した上で、自治体等が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベントの実施により来館者へのサービスが促進された。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会、観光協会への内覧会を行った。

西日本鉄道　観光列車
「旅人－たびと－」(車体)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
友の会会員数	141 人	－	－		206	144	117	196
パスポート会員数	4,633 人	－	－		3,914	3,318	3,093	4,224

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2231

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象)。
2)キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　伊藤信二 教育講座室長　丸山史郎 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、12大学17名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日間の活動を行った。
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学大学院インターンシップを募集し、ギャラリートーク(研究発表)班5名、調査研究班12名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。調査研究班では館蔵の「突起装飾坏（TJ-5401）」の調査研究及び工程見本の制作を行った。
2)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(詳細は処理番号2211-2及び統計表2-(2)-②を参照)

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップ
・インターンシップの募集は、近隣の60大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。
・インターンシップ受入部署
　学芸研究部　東洋室、保存修復課
　学芸企画部　教育普及室、教育講座室、情報管理室、情報資料室、
　　デザイン室、広報室
(東京国立博物館)
1)東京藝術大学大学院インターンシップ
・東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク(研究発表)班によるギャラリートーク　29回　参加人数949人
・東京藝術大学大学院インターンシップ調査研究班による活動は、平成25･26年の2ヵ年。平成25年度は調査研究課の協力のもと実施した。

東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2232

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員　赤尾栄慶

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、前期は、研究員6人が客員教授(4人)、客員准教授(2人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。後期は、客員教授(4人)のうち、1人が転出した為、客員教授3人、准教授2人の体制で担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。修士課程の学生2名については、修士論文の指導を行い、論文が提出された。

【補足事項】
・客員教授4人、客員准教授2人で、8科目の授業を担当し、講座に所属する大学院生4人及び授業に登録している数名の学生に、実際の文化財を教材にしながら、研究指導を行った。後期に客員教授が1人転出したが、他の教員で補って授業を行った。また修士課程の2人の学生の修士論文の指導を行った。
・京都大学の日本語・日本文化研修留学生に客員教授の１名が「日本の美術」に関する特別講義を博物館で行った。(25年11月13日に実施、留学生21人)

文化財ソムリエと京都大学大学院との合同授業

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2233

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。
2)奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。

担当部課	総務課総務係 学芸部企画室	事業責任者	係長　金谷嘉久 室長　野尻　忠

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)例年、立命館大学から数名の学生をインターンシップとして受け入れているが、25年度は同大学側の事情により受入れがなく、また、他大学への募集も行わなかったため、今年度のインターンシップ受入実績はなかった。
(奈良国立博物館)
1)・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期5人、後期4人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生8人であった。
2)・25年12月22日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第４回世界遺産学習全国サミットinなら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長と女優の紺野美沙子氏による「人とつながる　地域とつながる」と題した対談及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。

【補足事項】

「第4回世界遺産学習全国サミットinなら」チラシ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2234

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課	事業責任者	課長　今津節生 教育普及室主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生を14大学20人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は6大学11人)
○博物館見学実習に対応した。(5校延べ97人)
○福岡大学「博物館教育論」の授業実践に協力した。

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)・装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(25年8月19日～23日)
吉備国際大学2名、九州産業大学2名、別府大学2名、広島市立大学2名の計4大学8名が研修に参加した。
(九州国立博物館)
1) ・実習実施期間
25年8月22日～24日、26日～28日、8月30日～9月2日　計10日
・実習内容
作品・資料の収集と管理、展示、保存科学、教育普及、地域交流・国際交流など、博物館の各機能に関する講義、考古遺物・陶磁器などの作品取り扱い実習、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)を中心とした博物館科学実習、子ども向けワークショップの運営や体験コーナーでの対応などの来館者コミュニケーション実習、展示案作成演習
・実習において作成された展示案には秀逸なものもあり、体験型展示室「あじっぱ」において実現することを検討している。
・実習参加大学
山口県立大学、学習院大学大学院、筑紫女学園大学、福岡教育大学、沖縄県立芸術大学、福岡大学、九州産業大学、立命館大学、久留米大学、山口大学、福岡女子短期大学、奈良女子大学、同志社女子大学、Wake Forest大学(14大学20人)
○博物館見学実習受入校
崇城大学(25年5月25日、16人) 武蔵大学(25年9月4日、7人) 県立広島大学(25年9月27日、24人) 福岡女子短期大学(25年11月13日、18人) 東海大学(26年2月7日、32人)
○福岡大学「博物館教育論」(指導:吉川美由紀講師)において、当館を題材として「九博みどころMAP」の制作を行い、その成果の一部を当館体験型展示室「あじっぱ」において掲示・紹介した。

博物館実習の様子

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(東京国立博物館)
1)多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
2)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
3)～6)(略)

担当部課	総務部経理課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	環境整備室長　大江信浩 特別展室長　松嶋雅人 デザイン室長　木下史青

【実績・成果】
(4館共通)
1)全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『京都―洛中洛外図障壁画の美』の音声ガイドでは、野際陽子（女優）、佐々木蔵之介（俳優）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.5%となった。
(東京国立博物館)
1)26年4月15日オープン予定の「正門プラザ」において、新しい試みであるデジタルサイネージを含む、館全体の案内・誘導サインを多言語で整備した。
2)・本館から平成館へ24年度に移設・仮設置していた＜東京国立博物館 寄贈者顕彰コーナー＞のリニューアルを25年12月に行った。その照明として、LEDライン状光源のウォールウォッシュ照明器具を使用し、寄贈者の顕彰とともに憩いのギャラリーとしてリニューアルされた。
・4月15日にリニューアルオープンする本館18室の展示のため、LED光源によるカッタースポットライトを購入した。
(中期計画記載事項)
○施設のバリアフリー化として、黒田記念館、表慶館に多目的トイレと障がい者用EVを設置し、正門東側に多目的トイレを含むインフォメーション及びミュージアムショップの機能を備えた施設（正門プラザ）を建設した。また、本館リニューアルに伴う一時閉館期間に、多目的トイレの改修を行った。

【補足事項】
・上野公園周辺と東京藝術大学・谷中･根津･千駄木地域とのより密接な連携を図るため、黒田記念館別館に＜情報コーナー＞を整備し、周辺マップとチラシラック、椅子・テーブルを設置した。

正門プラザ東博館名文字サインモックアップ照明の実験風景

黒田記念館別館＜情報コーナー＞

平成館＜寄贈者顕彰コーナー＞LEDライン状照明の実験風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	150,214台	―	―		360,901	130,850	319,172	225,235
展示照明整備件数	2件	―	―		2	4	3	3

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】(4館共通)1)(略)
(東京国立博物館)1)2)(略)
3)総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。
4)障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。
5)「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3ヵ国語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
7)育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。
8)より快適な観覧環境を構築するため、休憩スペースを整備する。(本館地下・表慶館)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　伊藤信二 室長　小林　牧

【実績・成果】(東京国立博物館)
3)平成24年度より公開しているAndroidアプリ「トーハクなび」を引き続き公開した。
さらに、25年9月26日には、iOS端末用の「トーハクなびiOS Lite版」を新たに公開した。iOS Lite版には、Android版で人気の高い「日本美術の流れコース」と「建物めぐりコース」の２つのコース、３つの体験型コンテンツを収録した。Android版よりもサイズを小さくし、ダウンロードしやすくし、英語にも対応している。
また、iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語・英語対応）を引き続き公開した。
4)障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。
5)総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。
7)前年度に試行実施した託児サービスを、特別展「和様の書」、「京都」会期中に実施した。
8)25年9月に表慶館がリニューアルオープンしたことに伴い、1階の一部を休憩スペースとして開放した。

【補足事項】
3)各アプリの今年度のダウンロード件数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」1,775件（累計3,738件、24年4月18日公開）
・iOS版「トーハクなび」2,928件(累計2,928、25年9月26日公開)
・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」1,603件（累計21,855件、23年1月20日公開）
(東京国立博物館)
6)「日本美術の流れ」パンフレット　日本語版　計18回更新(第287号～第304号)

iOS版「トーハクなび」英語画面

託児スペース

7)今年度より本格導入した託児サービスの実施期間は25年7月31日（水）～11月24日（日）のうち12回であった。試行時とは異なり有料であったことなどから利用者数は25人（児童数30人）にとどまったが、アンケートではご利用いただいたすべてのお客様から、サービスに対して満足であるとの回答を得た（「大変良かった」88%、「良かった」12%)。特別展期間中だけでなく年間を通じての実施を望む意見がアンケートに多く寄せられたことから、次年度は通年での実施を検討中である。
○23年度より開始したベビーカー貸出サービスを継続した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(京都国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。
2)館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　村上　隆

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
(京都国立博物館)
1)24年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において、快適な観覧環境を提供するため、外構工事（庭園の一部を整備)、展示ケース製作工事、展示製作工事（館内サイン、展示台等を製作）を実施した。
2)前年度に製作した館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。
○平成知新館（新平常展示館）が、京都市から『みやこユニバーサルデザイン優良建築物』に認定された。
(中期計画記載事項)
・平常展示館にオストメイト対応トイレ、車いす対応水飲み器を設置した。

【補足事項】
(4館共通)
1)音声ガイド利用台数　計17,202台
　特別展覧会「狩野山楽・山雪」　(会期25年3月30日～5月12日のうち25年度の台数)：12,496台
　特別展観　「遊び」　1,596台
　特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」　3,110台
(京都国立博物館)
1)平常展示館の建替工事が引き続き継続中であるため、お客様の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。
○バリアフリー法又はバリアフリー条例の基準に加え､みやこユニバーサルデザインの考え方に沿った一定基準を満たした建築物としてみやこユニバーサルデザインハートマークのステッカーが交付された。

みやこユニバーサルデザイン優良建築物の印

オストメイト対応トイレ

車椅子対応水飲み器

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	17,202台	－	－		78,797	47,668	34,095	35,037
リーフレット等	6言語	6言語	A		6	6	6	6

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実

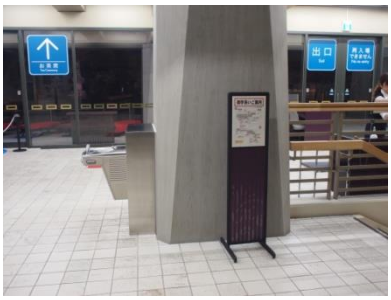
【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。
3)正倉院展の際に託児所を設置する。
4)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。
5)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。
6)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
7)なら仏像館の会場案内図、展示一覧を作成する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中に、託児室を開設し、多くの利用者があった。
4)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、展示替が年に数回ありそれに対応するのは困難であり、また解説ボランティアが常駐しているのでその必要性もないことから、導入しないこととなった。
5)ウェブサイトでの展覧会の混雑状況・待ち時間の速報については、正倉院展において特別協力の新聞社ウェブサイトにリンクを張る形で行った。
6)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
7)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。
(中期計画記載事項)
・多目的トイレに「オストメイト」用設備を整備した

【補足事項】
2)正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。
3)開設した託児室は、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中174人の利用があった。

音声ガイド貸出コーナー


館内誘導サイン

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	46,953	―	―		51,970	69,219	46,113	41,504
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2314-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(九州国立博物館)
1)～5)(略)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　臺信祐爾

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。

【補足事項】
(4館共通)
1)特別展音声ガイド
・特別展「大ベトナム展」では、71,192人の来館者に対して7,205台の貸出があった（貸出率10.1%）。
・特別展「中国　王朝の至宝」では、77,554人の来館者に対して11,385台の貸出があった（貸出率14.7%）。
・特別展「尾張徳川家の至宝」では、139,448人の来館者に対して18,787台の貸出があった（貸出率13.5%）。
・特別展「国宝 大神社展」では、89,561人の来館者に対して12,893台の貸出があった。（貸出率14.4%）

特別展「大ベトナム展」入口
（音声ガイドの案内表示）

○文化交流展示音声ガイド（3言語対応：英語、中国語、韓国語）
文化交流展示音声ガイド実施状況（貸出件数）
文化交流展示　計　5,341台
英語版　1,473台
中国語版　920台
韓国語版　2,948台

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
音声ガイド貸出台数	55,611台	－	－		139,159	81,717	56,993	114,064

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
3)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
4)文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。
5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　臺信祐爾 課長　赤司善彦 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)展示課を中心として毎月１回、文化交流展示室の展示や施設についての研究会を実施した。
2)上記研究会の提言を受けて、展示環境の中で分かり易いサインの開発に努めている。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。
4)トピック展でも展示趣旨を解説する英文のほか、トピック展示「ロシアが見たアイヌ文化」で英文リーフレットを配布した。
5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。
(中期計画記載事項)
・施設のバリアフリー化推進のため、「ほじょ犬」専用トイレを整備した。
・公益財団法人日本博物館協会が実施する車椅子の寄贈事業を活用し、車椅子を新たに１台導入した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)10周年のリニューアルを見据えた研究会を開催し、その提言を、展示課を中心に集約を図っている。
4) トピック展示にも主催者の了解を得て、英文リーフレットを配布し、展示内容を海外からの来館者を対象とした告知を進めた。

「ほじょ犬」専用トイレ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
リーフレット等	7言語	7言語	A		7	7	7	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2321

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)・タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施
　平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施した結果を元に環境改善に努めた。
　・「総合文化展100万人プロジェクト」の一環として非来館者調査(インターネット調査、フォーカスグループインタビュー、街頭調査)を行い、外部有識者を交え、総合文化展の問題点の洗い出しを行った。
2)特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1)・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。
　・東洋館を会場とした特別展においては、会場までの案内をわかりやすく表示した。
　・国際交流基金「KAKEHASHIプロジェクト」の団体受け入れにおいて、アンケートを実施するなど、外国人（若年層）への調査を行った。
　・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。
　・創立150周年を迎える2022年までに総合文化展来館者100万人を目指して、総合文化展100万人プロジェクトを組織、各種調査を通して初心者にもわかりやすい展示解説や音声ガイドの作成等の提言を行った。新たに策定した中長期事業戦略に沿って、次年度以降は順次実施していく予定。

2)特別展会場における混雑対応
　・休憩用の椅子を通常より多く配置した。

○旅行会社クーポン契約により、駐車場を利用する団体の入館がスムーズに行われた。
○上野公園と周辺博物館・美術館で開催するイベント「創エネ・あかりパーク2013」に協力し、施設への美術品画像の投影と期間中の開館時間延長を実施した。
○「京都展」期間中の最終週の5日間は開館時間を延長した。

タッチパネルアンケート
（クリーブランド展・人間国宝展）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
国宝　大神社展　満足度	72%	－	－		－	－	－	－
和様の書　満足度	72%	－	－		－	－	－	－
上海博物館　中国絵画の至宝　満足度	91%	－	－	経	－	－	－	－
京都－洛中洛外図と障壁画の美　満足度	72%	－	－	年	－	－	－	－
クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美　満足度	57%	－	－	変	－	－	－	－
人間国宝展－生み出された美、伝えゆくわざ－　満足度	69%	－	－	化	－	－	－	－
支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－　満足度	81%	－	－		－	－	－	－
総合文化展	78%	－	－		89%	88%	65%	70%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館)
1)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。
2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。
(京都国立博物館)
1)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。

【補足事項】
(4館共通)
2)・明治古都館(特別展示館)内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。
・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等で掲載した。
・混雑対策として、「狩野山楽・山雪」会期中、仮設女子トイレを設置した。
(京都国立博物館)
1)・屋外に設置しているテント・傘立ての設置場所について、景観上望ましくないとの意見があったため、景観に配慮した場所に移設した。
・展覧会場での写真撮影を希望する意見があったため、展覧会によっては、玄関ホール等を写真撮影可能とした。
○職員等への防災・接遇研修等
・当館職員を対象に、普通救命講習及びAED取扱講習会を実施した。
全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても繰り返し訓練している。
・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。
・当館職員、臨時要員、売店・レストラン従業員を対象として「お客様対応についての講習会」を実施した。

臨時コインロッカー及びテント
(「狩野山楽・山雪」会期中)

AED取扱講習会風景

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経	21	22	23	24
狩野山楽・山雪　満足度	95%	－	－	年	－	－	－	－
遊び展　満足度	84%	－	－	変	－	－	－	－
魅惑の清朝陶磁　満足度	87%	－	－	化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』87号に掲載した。

【補足事項】
(4館共通)
1)アンケートなどの意見を反映して、下記の改善を行った。
・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。
・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。トイレ利用案内を改善した。
・正倉院展の会期中、トイレを順次見回り、汚れがあれば迅速に清掃を行った。

○ウェブサイトから寄せられたご意見等の質問に対し、迅速に対応した。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、実際の混雑に対して工夫等を行った。
・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテントを設置し、ピロティではモニターを設置して関連の映像を流した。
・正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅、ＪＲ奈良駅及び読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して行った。
・正倉院展では、入場待ち列の混雑緩和のため誘導案内を行った。

入場待ちの方のための映像モニター

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－　満足度	79%	－	－		－	－	－	－
みほとけのかたち －仏像に会う－　満足度	93%	－	－		－	－	－	－
第65回正倉院展　満足度	70%	－	－		79%	77%	73%	77%
名品展　満足度	84%	－	－		68%	75%	74%	79%

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。
2)・混雑が予想される展覧会（特別展「尾張徳川家の至宝」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。

【補足事項】
(4館共通)
1)管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。
・平常展アンケート　満足度 65%　　回答数 229件
（とても良い 37%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 4%、よくない 2%、無回答 16%）

2)・混雑が予想された特別展「尾張徳川家の至宝」では、展覧会場の快適な環境維持のため、入場待ち列等の調節、展示室内での誘導等を行った。
・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
・開館10周年に向けて、「次の10年を考える懇話会」を開催し（年5回）、外部委員からの要望・意見聴取等を実施した。

「次の10年を考える懇話会」

○太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
大ベトナム展　満足度	82%	―	―	経	―	―	―	―
中国　王朝の至宝　満足度	87%	―	―	年	―	―	―	―
尾張徳川家の至宝　満足度	85%	―	―	変	―	―	―	―
国宝　大神社展　満足度	87%	―	―	化	―	―	―	―
文化交流展満足度	65%	―	―		66%	59%	65%	70%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(東京国立博物館)
1)正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する。
2)黒田記念館にカフェを設置する。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)・ミュージアムグッズは、東京国立博物館協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に努めた。
・資生堂パーラー製ラ・ガナッシュや榮太樓飴、神戸風月堂ゴーフルなど有名菓子メーカーとの共同開発を行い、来館記念に購入しやすい商品のラインアップを充実させた。また、当館のキャラクターグッズを充実させ購買対象の拡大を図った。
・秋の特別公開にあわせ、重文「夏秋草図屏風」のグッズコーナーや原寸大複製を設置するなど展示作品との関連を重視した販売を行った。
○レストランでは、「博物館に初もうで」の期間中にヒマラヤ岩塩パウダーや伊予の水引の箸置の配布を行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。
(東京国立博物館)
1)正門エリアのリニューアルに伴い設置する無料ゾーンに、ミュージアムショップを併設する準備を進めた（26年4月オープン予定)。
2)25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。

【補足事項】
(4館共通)
1)・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「清時代の書－碑学派－」の開催期間中に、台東区立書道博物館の図録を販売し、連携企画の趣旨に沿った利用者サービスの向上に努めた。
・資生堂パーラーと提携して、「葛飾北斎冨嶽三十六景・凱風快晴」をもとに、チョコレート菓子（ガナッシュ）を製作した。
・バンダイと提携して、スマートフォンを使用してプロジェクションマッピングを楽しむ玩具菓子「ハコビジョン」を製作した。平成26年1月開催の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で紹介された。
・来館者の要望に応えカレンダーを通常の大判サイズの他に、卓上カレンダーを製作した。
・日本美術50選絵はがきを製作し、代表的な収蔵品の絵はがきをセットで購入しやすくした。
・東洋館公式ガイド『東洋美術をめぐる旅』を販売し、来館者が東洋館を観覧する際の手助けに供した。
・25年9月4日に黒田記念館別館に上島珈琲店を開店した。
○今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。

資生堂パーラー製
東京国立博物館ラ・ガナッシュ

上島珈琲店　黒田記念館店

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
－	－	－	－	経年変化	－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。
2)新平常展示館に新たなレストランを設けるための各種準備を行う。

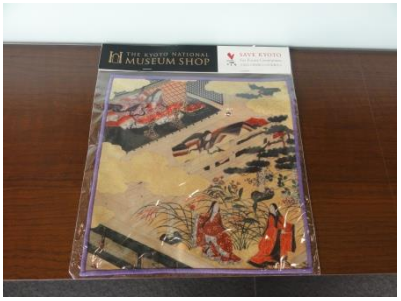
担当部課	総務課	事業責任者	課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。
2)平成知新館（新平常展示館）に併設されるレストランの企画競争準備を整えた。

【補足事項】
・南門施設は21年7月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。
・明治古都館（特別展示館）が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。
・当館職員だけでなく、委託している外部業者も当館が開催するお客様対応講習会に参加し、接客サービスの向上を図った。
・当館オリジナルグッズ（クリップ、立体カード、ジグソーパズル等）を引き続き販売した。
・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。
・ミュージアムショップにおいて、24年度に引き続き、350種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。
・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ掲示や、英会話のできる人員の配置など、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。
・24年度に引き続き、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナー共通の営業カレンダーを製作し、掲示した。
・手ぬぐいやタンブラーなど季節感のあるものの販売も行った。有名レストランのクッキーや、ホテルのチョコレートも作成し好評であった。25年4月から新たにきものポストカード、ボールペン、クリーナークロスの販売を開始し好評であった。

きものポストカード

ボールペン



クリーナークロス

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(奈良国立博物館)
1)ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。
3)より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　森継明広

【実績・成果】
(4館共通)
1)オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ、正倉院展模様シリーズ、博物館グッズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。
(奈良国立博物館)
1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。
　・26年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッチを配布した。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。
3)より快適な環境を提供できるよう、レストランの全面リニューアルを行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」の新商品（クリアファイル、正倉院展模様のステンドグラス風しおり、Tシャツ等）をミュージアムショッ　プで開発し販売した。
(奈良国立博物館)
3)内装（全面）とメニュー（一部）をフレンチ風にリニューアルした。また、デッキ部分(テラス席)を拡張した。

クリアファイル

ステンドグラス風しおり

オリジナルTシャツ

ミュージアムレストラン

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。
(九州国立博物館)
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。

【補足事項】
(4館共通)
1) 博物館の8周年にあわせた記念セット商品等を販売した。

(九州国立博物館)
1)特別展に関連したメニューを提供した。
- 「大ベトナム展」では、ベトナムの屋台で定番のメニュー（焼飯、ボイルチキン、揚げ春巻き、ベトナム風えびせん）を盛り合わせた一皿『ベトナム屋台風焼飯　カニスープ添え』等を提供した。
- 「中国　王朝の至宝」展では、練りゴマとピーナッツクリームで仕上げた特製スープと、さっぱりとしたトマト風味のピリ辛ミンチのコラボレーションが絶妙な、夏の暑い日にぴったりな冷製タンタン麺の『夏トマト風味の冷製ピリ辛タンタン麺　ミニ杏仁デザート付き』等を提供した。
- 「尾張徳川家の至宝」展では、徳川家家紋“葵”をイメージし栗・昆布といった“三つ葉葵”の由来を思わせる食材とともに、江戸時代からの伝統料理・名古屋を取り巻く地方の名物料理を加え、松花堂弁当に仕立てた『ミュージアム松花堂弁当　“葵の膳”』等を提供した。
- 「国宝　大神社展」では、伊勢神宮式年遷宮に際する展示にちなみ、三重県の名物料理や特産物、縁起物を彩りよく詰め込んだ特製松花堂弁当『御神宝膳』等を提供した。

ベトナム屋台風焼飯　カニスープ添え

夏トマト風味の冷製ピリ辛タンタン麺
ミニ杏仁デザート付き

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2411

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(東京国立博物館)
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
3)収蔵品の和書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。
4)法隆寺献納宝物について、5ヵ国語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】(4館共通)
1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。
2)国宝・重要文化財の高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開し、アップデートを行った。
3)既存のシートフィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、25年度新規フィルム撮影分及び24年度末撮影分にあたる、カラーフィルム304枚、モノクロフィルム1枚をデジタル化した。また、マイクロフィルムについては当初予定していなかったが、25年度予算にて実施できることとなり、館史資料を中心とする550,000コマ(1,039リール)をデジタル化した。これをもって、既存マイクロフィルムのデジタル化についてもほぼ完了することができた。
(東京国立博物館)
1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、検索性能の向上等のアップデートを行った。
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。
3)収蔵品の和古書について18,307カット、また所蔵する洋古書について3,788カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。
4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」はサーバ機器が故障したため、25年4月より一時公開を停止し、バックアップデータと再構築の手順について調査した。開発当時作成されたバックアップデータの旧式カートリッジを読み取る機器を次年度調達してデータを精査し、利用可能であれば次年度の前半には再開可能となる見込みである。
○東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。

【補足事項】(4館共通)
2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。なお、連携している「Twitter」のAPI変更に伴い、25年4月にアップデートを行った。
・iOSアプリ446,827件（23年1月20日リリース）参考：24年度末時点404,822件
・Androidアプリ161,433件（25年2月6日リリース）参考：24年度末時点55,161件
(東京国立博物館)
3)和古書のデジタル画像のデータ整備を進めたところ、利用者の使いやすさのためには当初想定していた公開方法を変更する必要があるため、公開準備を継続している状況である。
○本館19室のリニューアルに向けて、「e国宝」で公開している画像・テキストのコンテンツ、及び同事業において作成した三次元計測データを対象として、それぞれについてより直感的で親しみやすい新しい閲覧システムを開発した。

三次元計測データ閲覧システム

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	550,305件	1,000件程度	S	経年変化	775,300	8,639	1,468	776
うちカラーフィルム	304件	－	－		3,480	5,136	1,392	715
うちモノクロフィルム	1件	－	－		23,639	3,503	76	61
うちマイクロフィルム	550,000件	－	－		748,181	0	0	0

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2412

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(京都国立博物館)
1)収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。

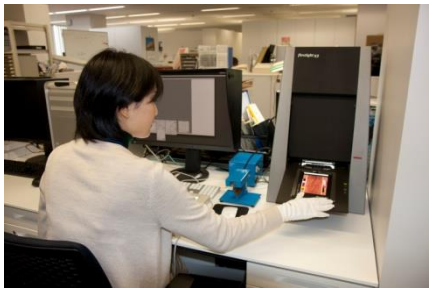
担当部課	総務課 学芸部列品管理室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,682件実施した。
・平成24年度導入のフィルム用スキャナについて本格運用を開始し、既存フィルムのデジタル化を促進した。
・ガラス乾板及びマイクロフィルムのデジタル化を開始した。(詳細は処理番号2422を参照)
(京都国立博物館)
1)京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」の内容及び表示方法等について前年度に引き続き修正を行った。

【補足事項】
(4館共通)
3)デジタル化の必要なフィルム量が膨大であるため、従来のアウトソーシングと同時に、より経済的なスキャナ導入による館内でのスキャニング作業を開始し、フィルムのデジタル化が促進され、費用削減にも貢献した。

(京都国立博物館)
1)当館のウェブサイトのリニューアルを26年6月に予定しており(詳細は処理番号2452を参照)、「KNM GALLERY」と合わせて相乗的かつ効果的な運用を図れるように、全体的な検討を行った。

京都国立博物館所蔵国宝重要文化財
・名品高精細画像公開システム
「KNM GALLERY」


フィルムのスキャニング作業

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	2,682件	2,000件程度	A		―	―	2,165	2,732

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2413

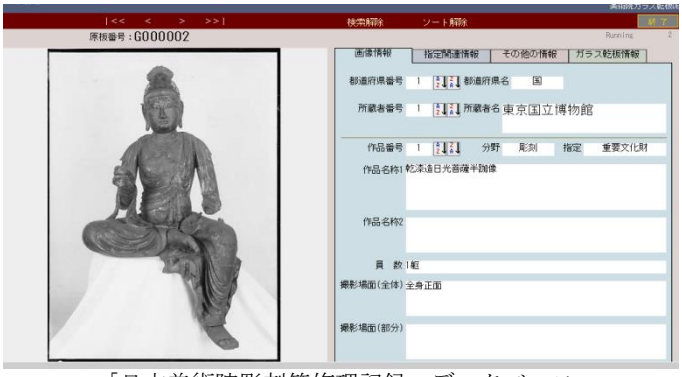
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
4)仏教美術情報の公開・普及を図る。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。
2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(7,615件)。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品情報システムに新たに収蔵品となった文化財の情報を継続して蓄積し、『なら仏像館名品図録』掲載の情報も追加するなどして内容の充実に努めた。これらは公開用の収蔵品データベースにも反映され、当館から発信する収蔵品の基本情報、画像、解説文、文献をともに充実させることが出来た。
2)写真情報システムの個別データを9,093件追加更新した。このうち公開データは4,280件
3)「日本美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内で運用しているデータベースのデータを更新した。
4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。

【補足事項】
「日本美術院彫刻等修理記録」のデータベースを学芸部内で運用しているが、これにより資料の整理とデータ作成が効率的に実施出来ている。このデータベースは現在館内のみで閲覧が可能であるが、外部公開に向けてシステム構成ならびに内容・表示・画面推移などの再検討を行っている。このデータベースには、約8万枚の修理記録と約7千枚のガラス乾板の画像及び関連テキストが格納されており、外部への公開が実現すれば、文化財に関する情報発信をさらに発展させることができる。



「日本美術院彫刻等修理記録」データベース

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	7,615件	3,000件程度	S		90,555	4,311	5,297	4,924
写真データベースの個別データ追加更新件数	9,093件	2,000件程度	S		12,399	5,190	4,370	13,402

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)情報システムの更新による作業効率化と収蔵品写真など既存フィルムのデジタル化・データベース化の積極的な推進により、定量的評価目標値の大幅超え及び文化財情報発信基盤の強化が実現できた。

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　2414

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約6,200件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：200) の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(九州国立博物館)
1)収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。
2)海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 交流課	事業責任者	課長　冨坂　賢 教育普及室主任研究員　　池内一誠

【実績・成果】
(4館共通)
1) 「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の拡充を図り、館内及びインターネットで継続して収蔵品情報を発信した。
2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、デジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。
3) 62件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。
(九州国立博物館)
1) デジタルアーカイブの充実を図るため、収蔵品に関するコンテンツの追加を検討している。
2) ドイツにおける博物館教育の実態を調査して写真に収め、今後の博物館教育の参考資料とした。

【補足事項】
(4館共通)
3) 年度末に約800件のフィルム撮影を行ったが、年度内にデジタル化することはできなかったため、次年度実施する予定である。

(九州国立博物館)
2) 調査結果をもとに、次年度以降における教育普及事業の方向性について館内博物館教育担当者間で検討会を実施した。

A90　紙本著色虎図　熊斐筆
平成25年度購入資料
ポジフィルムのデジタル化画像

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	62件	200件程度	C		3,574	1,391	2,146	1,450

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2421

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件(東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(東京国立博物館)

1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。

3)調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。

4)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】(4館共通) 1)本年度は9,865件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(東京国立博物館)

1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、約8,500件の図書資料のデータ整備入力を推進した。また、展覧会カタログ約650冊と洋雑誌約640件の既存データについて、書誌データの確認・訂正を実施した。
・今年度より国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への雑誌の登録を開始し、洋雑誌639タイトル、和雑誌49タイトルの所蔵情報を登録した。
・画像管理システムに画像データ9,865件を登録し、既存データ1,450件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。
・貴重資料のデジタルアーカイブ公開にむけ、16件62冊の洋書・漢籍のデジタル撮影を実施した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続し、資料館利用者数は前年度に引き続き増加した。
(5,661人。参考：24年度4,828人)

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。

3)東京国立博物館開催の展覧会出品作品データベースに4,989件の作品情報を入力した。また、所蔵品情報と文献情報とを関連づけるため、当館刊行物に収載されている所蔵品を調査し、約120冊の図書・雑誌のデータに列品番号の情報を入力した。 また記載された列品番号などの確認調査を行い、約90件について訂正、確認を関連部署に依頼し、画像及び列品情報の精度の向上に努めた。

4)ＶＲシアター跡及び黒田記念館の書庫スペースについて、書架の設置と資料の配置案の策定を行った。

【補足事項】(4館共通)

1)新規撮影件数の実績が目標を大幅に上回ったのは、1回の撮影で多数のカットを撮るケースが当初の想定より多かったことによる。デジタル撮影の本格化でこの傾向が安定して見られるため、次回目標値の設定を見直す予定である。

資料館利用案内パンフレット

(東京国立博物館)

1)・図書資料データ整備の内訳は、新規受入図書 4,989冊、既存図書の遡及入力3,505冊である。新規整理のうち、738冊はハングルの寄贈図書と発掘調査報告書である。個人文庫（野口本）のうち長く未遡及だった展覧会カタログ及び発掘調査報告書について遡及入力を行い、307冊と1,975冊のデータを作成した。
・資料館利用案内(Ａ4三つ折り)のパンフレットを作成し、本館等のインフォメーションでの配布及び類似施設へ送付を行い、資料館の広報に努めた。
・雑誌の所蔵登録にあたっては、NACSIS-CATに書誌がない236タイトルの新規書誌登録を行い、CiNii Booksでも資料館所蔵雑誌の一部が検索可能となった。

4)・図書資料の展示コーナー及び新着書架において、所蔵資料紹介の展示(年3回)、及び月毎の新着資料の展示を行った。また、展覧会開催に合わせて、特別展関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース（OPAC）に記事を掲載し資料館からの情報発信に努めた。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	9,865件	3,000件程度	S		16,567	11,343	10,566	9,556
うちフィルム撮影	22件	－	－		4,177	5,377	1,379	1,063
うちデジタル撮影	9,843件	－	－		12,390	5,966	9,187	8,493
新規図書整理	4,989件	－	－		3,411	7,345	3,970	4,877
遡及図書整理	3,505件	－	－		11,105	7,836	5,459	13,693

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2422

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約11,000件(東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を 1,406 枚、デジタル撮影を 3,119 枚行った。
・デジタルカメラ等撮影機材が導入され、デジタル撮影とフィルム撮影を並行して行った。
・画像利用申請に伴う収蔵フィルムのデジタル化作業を継続して行った。
・館蔵ガラス乾板の保存整理作業を継続して行い、ガラス乾板のデジタル化を始めた。
・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを開始した。
・経年劣化の激しいマイクロフィルムのデジタル化を開始した。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書2,503冊、逐次刊行物1,411冊を収集した。

【補足事項】
・当館の展覧会出品作品の撮影は、「狩野山楽・山雪」展、「遊び」展、「魅惑の清朝陶磁」展、また26年4月22日開始予定の「南山城の古寺巡礼」展を対象として進めた。
・デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。
・ガラス乾板の劣化状態が深刻であるため、京都造形芸術大学の協力により、ガラス乾板の劣化・破損状態調査を行い、基礎データの調書を作成し、カビ・埃等の除去を行った。同時にガラス乾板の画像をデジタル化によって保存活用するため、ガラス乾板のデジタル化を開始した。
・フィルム保存箱の経年劣化が始まっており、フィルムにも悪影響を及ぼすため、保存に適した収納箱に順次移し替えを開始した。
・マイクロフィルムの劣化状態が深刻となり、重要度の高いものからデジタル化を開始した。
・図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、引き続き情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,525件	3000件程度	S		3,753	3,379	3,580	2,713
うちフィルム撮影	1,406件	－	－		－	－	3,410	2,168
うちデジタル撮影	3,119件	－	－		－	－	170	545

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2423

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】

(4館共通)

1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(4,648件)。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。

2)・当館が公開するOPAC（図書)、収蔵品データベース、画像データベースの連携を強化させ、情報発信と利便性の向上に努めた。

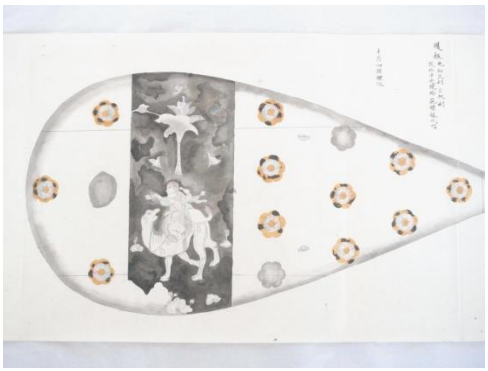
・仏教美術資料研究センターに附属する資料庫の空調設備を改修し、貴重書・複製・拓本などの資料の保存環境を改善するとともに、利便性を考慮して一部資料の配置換えを行った。

・仏教美術資料研究センターでは、通常の資料・施設の公開にとどまらず、ボランティアによる建築案内や、専門家の見学や研修の受け入れを複数回行った。外部からの見学・取材依頼は増加しており、それらに適宜対応することにより、機能及び施設の普及・宣伝に効果を上げている。

【補足事項】

1)仏教美術資料研究センターでは、『國華』(明治22年～）や『稿本日本帝国美術略史』（明治34年）といった刊行物や拓本、複製など、美術史・博物館に関する貴重な近代資料を保管している。これらの保存環境の改善に資するため、資料庫の空調設備を改修した。

2)今年度は、「正倉院御宝物」の写しや古写真、建築資料などからなる近代資料一括の寄贈を受けた。これらを当館保有の資料とともに整理保管し、活用へと繋げるための体制の整備が今後とも必要である。



「正倉院御宝物」

仏教美術資料研究センター
資料庫（収蔵庫）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,648件	3,000件程度	S		5,818	11,684	6,103	4,960
うちフィルム撮影	87件	－	－		5,818	1,725	219	14
うちデジタル撮影	4,561件	－	－		－	10,677	5,884	4,944

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2424

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約11,000件（東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：2,000)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(九州国立博物館)

1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。

2)博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムについて継続的に見直しと改良を加え、より充実した業務システム構築を目指す。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】

(4館共通)

1) 1,512件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(九州国立博物館)

1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて検討を行った。

2) 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、第２次業務システムの検討を行った。

【補足事項】

(4館共通)

1)

・目標値2,000件は、過去の実績をもとに設定しているが、今年度撮影した収蔵品・寄託品は大半が単品で、1回あたりの撮影件数が少なかったため、実績は1,512件に留まり目標値に満たなかった。

・収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となりつつある。

九州国立博物館トピック展用写真撮影
黒島銅矛　東京国立博物館所蔵

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	1,512 件	2,000件程度	B		4,686	1,393	4,441	2,142
うちフィルム撮影	822 件	－	－		－	1,357	2,175	1,480
うちデジタル撮影	690 件	－	－		－	36	2,266	662

総合評価	S　A　Ⓑ　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 2430

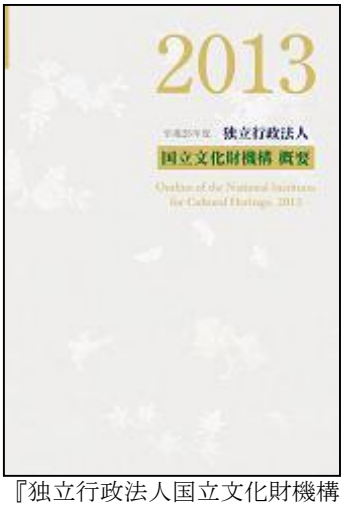
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(機構本部)
1)機構の概要、年報を作成する。
2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。

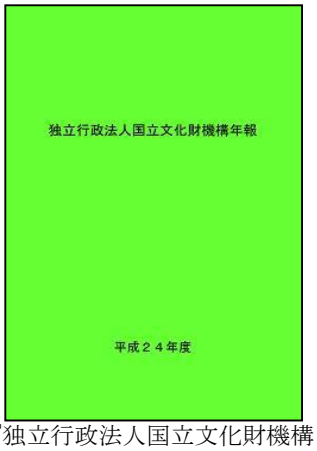
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　池野浩幸

【実績・成果】
(機構本部)
1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成25年度』を25年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
　『独立行政法人国立文化財機構年報 平成24年度』を26年1月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。

【補足事項】
1)『平成 25 年度概要』: 2,700 部、カラー45 ページ、和英併記。
　『平成 24 年度年報』: 250 部、カラー4 ページ・モノクロ 1,152 ページ。
2)機構本部ウェブサイトアクセス件数：283,412件。



『独立行政法人国立文化財機構
概要 平成25年度』



『独立行政法人国立文化財機構
年報 平成24年度』

独立行政法人国立文化財機構
ウェブサイト　トップページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2431

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
(東京国立博物館)
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
1)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。
2)平成26年春の本館一部リニューアルオープン関連を含めた総合文化展の広報展開の企画・運営を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」「本館リニューアル」他各種広報印刷物を制作・配布した。
(東京国立博物館)
1)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。
2)『東京国立博物館ニュース』掲載、「博物館でお花見を」チラシ掲載、ウェブサイト・SNSによる告知を行った。

【補足事項】

2)
・『東京国立博物ニュース』では、総合文化展のページを増やし、きめ細かい情報発信に努めた。
・「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日新聞への15段カラー広告を出広し、「毎日広告デザイン賞準部門賞」を受賞した。

『東京国立博物館ニュース』

「博物館に初もうで」新聞広告

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2432

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。

【補足事項】
・25年4月～26年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(30,000部)
・近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。
・最寄り駅となる京阪電鉄と連携した広報活動の実施に向け、検討会を実施した。
・展覧会記者発表会を実施し、展示内容や見どころについて詳細にレクチャーを行い、記事掲載機会の拡大に努めた。
・展覧会のジャンルに併せてチラシ等発送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。
・メールマガジン会員数の維持・増加を目的として平成24年度に開始した会員特典の小冊子（PDF）の刊行を継続して行った(詳しくは処理番号2442を参照)。
・「Twitter」を通じて展覧会の混雑状況の迅速な情報発信を行った。
・一般社団法人京都府タクシー協会、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローの構成員に対して展覧会の特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。
・前年度に広報特使に任命した女優・藤原紀香氏の公式ブログや公式「Facebook」にて当館の情報を発信し、広報推進を図った。
・博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、25年4月に文化大使として新たに俳優の井浦新氏を任命した。

京都国立博物館　年間スケジュール
(25年4月～26年3月)

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2433

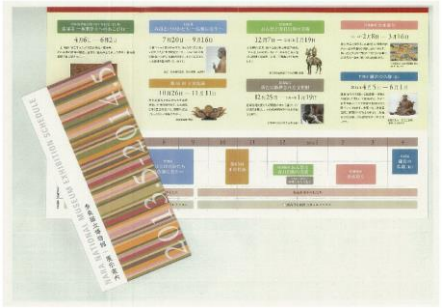
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
(奈良国立博物館)
1)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。
2)地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
4)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
5)写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)25年5月～26年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。
(東京国立博物館、奈良国立博物館)
1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。
(奈良国立博物館)
1)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。
2)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。
3)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
4)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。
5)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力を行い、博物館の認知度を高めた。

【補足事項】
3)・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。
・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。
・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。



年間展示案内リーフレット（一部改訂版）

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2434

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(九州国立博物館)
1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
4)九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　臺信祐爾 課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(20,000部)
(九州国立博物館)
1)例年通り主催者と連携しつつ、広報・宣伝材料を作成し、告知の拡大に努めた。
2)例年同様、2ヵ月間隔で展示替えスケジュールを公開し、文化交流展室の展示内容の告知の拡大に努めた。
3)トピック展示ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。
福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。
4)九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。
5)特別展が開催されない正月期間の来館促進を図るため、オリジナル手ぬぐいを作成し、正月用ポスター等を掲出して展示・イベントの告知に努めた。

【補足事項】
(九州国立博物館)
2)CMとして作成した動画を「YouTube」等動画紹介サイトでも公開し、webとリンクした告知に努めている。
3)太宰府市と連携し、スマートフォン向け情報サイト「太宰府市イベントガイド」を25年12月から開始した。

年間スケジュールリーフレット

太宰府市イベントガイド

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2441

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

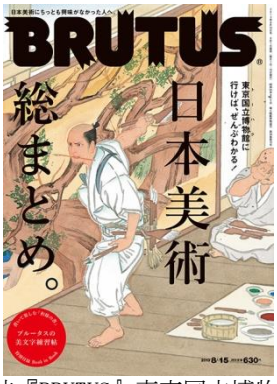
【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回)
2)ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
3)主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(26回)
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回)
2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数116回)
・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。
・25年7月より新たにSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を開始し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。
3)新聞各紙の美術・文化担当記者ならびに文部科学省記者クラブのメンバーを対象とした記者懇談会を実施した。(25年11月20日)

【補足事項】
(4館共通)
1)雑誌『BRUTUS』の東京国立博物館特集に協力。若年層への情報発信と、イメージの向上、新たな来館者層の開拓に寄与した。

(東京国立博物館)
2)・「1089ブログ」では、研究員はもとより、館内の様々な部署の職員が、展示・催し、その他館の活動に関する情報発信に関わった。
・「Twitter」フォロワー5255、「Facebook」いいね！3288を獲得。



雑誌『BRUTUS』東京国立博物館特集号

東京国立博物館「Twitter」画面

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『東京国立博物館ニュース』発行	6回	6回	A		6	6	6	7

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)　SNSによる情報発信を開始し、情報発信力を強化した。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2442

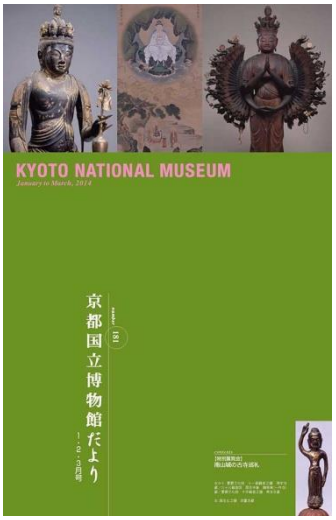
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(京都国立博物館)
1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
3)京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)・各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。
・各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動の広報に努めた。
2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。また、メールマガジン読者限定特典のブックレット「京博PLUS」の配信を行った。(メールマガジン12回、ブックレット12回)
(京都国立博物館)
1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年3回)の発行・配布を行った。
2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。
3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。

【補足事項】
・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ5千部から2万部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。
・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として原則として年4回発行(今年度は3回)し。現在120号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。
・「京博PLUS」は、メールマガジン読者を増やすため、読者限定特典として、わかりやすさや即時性をより重視した博物館全体を話題にするブックレットとして平成24年度末に刊行を開始、本年度も継続して刊行した。



京都国立博物館だより No.181

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『京都国立博物館だより』発行	4回	4回	A		4	4	4	4
『Newsletter』発行	3回	4回	B		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　　　　　　　　　　　　　　　　　施設名　奈良国立博物館　　　　処理番号　2443-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(奈良国立博物館)
1)～7)(略)

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
3)メールマガジンを毎月1回配信した。(11回)

【補足事項】
1)○名品展及び館全体の広報
・読売新聞に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った。(隔週)
○特別展「當麻寺 －極楽浄土へのあこがれ－」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回)
○特別展「みほとけのかたち －仏像に会う－」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(3回)
・ＮＨＫ奈良放送局「ならナビ」で館職員が広報を行った。
○「第65回正倉院展」広報
・読売新聞に展示品紹介を連載した。(5回)
・朝日放送で「文化財2013 正倉院宝物を写す 我が国最古の文化財写真 第65回正倉院展」、ＮＨＫ教育で「日曜美術館 第65回正倉院展」がそれぞれ放映された。
・読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」で、一般公開初日に館内からの生中継で館長自ら広報を行った。
・読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」、読売テレビ「かんさい情報ネットten！」で館職員がそれぞれ広報を行った。
・ＮＨＫ第一とＮＨＫ－ＦＭの「ラジオ深夜便 展覧会への招待」で館職員が広報を行った。

最高の表情 照らす光

奈良博手帖

学芸員の性分

学芸員をしていると、作品の思わぬ表情や秘密に出会う機会がある。例えば陳列作業の時は、作品の底や裏側など普段目にできない部分を見ることができるチャンスであり、写真撮影の時は、作品が最高に美しい姿を見せてくれる。

6月2日まで奈良博で開催中の特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」の図録に載せる写真を撮影するため、1週間ほど葛城市の当麻寺に通った。時間帯は夕方から。暗い中、照明に照らされた仏像は息をのむほど美しい表情を見せてくれ、工芸品もまた、光線の加減で見えなかった文様が浮かび上がった。

忘れがたいのは「當麻曼荼羅（貞享本）」を納める国宝の厨子の撮影だった。柔らかい光を浴びて浮かび上がる曼荼羅を見ていた時、古来多くの善男善女がこの曼荼羅に対して極楽往生を願った気持ちがわかったような気がした。その時私が受けたのは、感動というより幸福感だった。

学芸員は自分の感銘を他人に伝えたいという性分がある。早速、特別展期間中、当麻寺堂内を奈良博でも使用しているLEDを用いてライトアップする段取りをつけた。今、当麻寺を訪れれば、これまで学芸員だけが知っていた御仏の姿を見ていただくことができる。

（奈良国立博物館学芸部長補佐　内藤栄）

照明に浮かび上がる當麻曼荼羅と厨子（葛城市の当麻寺で）

読売新聞での連載『奈良博手帖』

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
(略)
(奈良国立博物館)
1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
3)奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。
4)東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。
5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。
7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　吉澤　悟 係長　石田義則

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回)
2)ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。
3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、25年8月に3館（各2回）子ども向けワークショップ、25年9月に3館合同神戸シンポジウム、25年10月に3館合同外国人向けワークショップ、25年12月から26年2月にかけて3館リレー東京セミナー（計3回)、26年2月に3館（各1回）ワークショップを実施した。
4)・東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。
・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定（26年1月2日～5日）の無料観覧券（※名品展は観覧割引）を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定（26年3月7日～9日）の無料観覧券（※名品展は観覧割引）を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。
5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
7)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。

【補足事項】

奈良トライアングルミュージアムズ
「神戸シンポジウム」

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
『奈良国立博物館だより』発行	4回	4回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2444

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の編集・発行・配布を行う。(年4回)

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回)　25年5月15日、フォーマットをリニューアルした。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトにて文化交流展示室の「今月の名品」のスケジュール等を掲載し、また研究員が展覧会等の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。(年4回)
○『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(25年8月)

【補足事項】
(4館共通)
1)・公共交通機関にて、ポスターの掲示、チラシの設置等を行った。
　・新聞紙上で展示作品の解説を行った。
　　新聞にて特別展「大ベトナム展」、特別展「中国　王朝の至宝」、特別展「尾張徳川家の至宝」、特別展「国宝 大神社展」の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。
2)・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
　・ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。
3)・25年5月15日にメールマガジンのフォーマットをリニューアルし、見どころ、おすすめ情報を中心に掲載した。
　・各特別展のアンケートに、メールマガジン登録申込欄を設け、会員の増加を図った。
(九州国立博物館)
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を25年4月1日、7月1日、10月1日、26年1月1日の4回発行した。

○家族を対象とした『きゅーはく攻略本』を作成・配布した。(A5版、20頁、25年8月10日刊行) ウェブサイトでもダウンロード可能。

季刊情報誌『アジアージュ』　Vol.30

『きゅーはく攻略本』

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
九博季刊情報誌『アジアージュ』発行	4回	4回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2451

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)

【補足事項】
1)・SNS、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。
・トップページのフラッシュに新規画像を追加、「博物館に初もうで」や開催中の特別展に関連した画像も使用し、各企画の訴求力を高めた。
・中国語ページについて、展示案内をより詳細にし、中国美術館関連の特別展についてページを設けるなど、充実を図った。
・参加型コンテンツに関して、参加者数が伸び悩んだ「ユリノキひろば」を終了させ、参加者数が増加傾向にある投票に特化させた。
・所蔵作品をデザインしたポストカード等、ダウンロードアイテムの更新並びに新規デザインを追加した。
・動画「東京国立博物館140年の歩み」をアップした。
・「とーはくナビ」の更新版をアップした。
・26年4月に予定されている本館リニューアルオープン、正門プラザのオープンに伴い、基本情報の改訂、マップ画像の改訂等を行った。
○内部業務用システムの改変
・更新作業の効率化を図るため、CMS（コンテンツ管理システム）機能の改変を実施した。

ウェブサイト 1089ブログ

東京国立博物館140年のあゆみ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	2,898,885件	―	―		5,687,673	4,971,306	2,772,633	2,982,729

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2452

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	総務課 学芸部列品管理室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載や更新を通じ、内容の充実に努めた。
・ウェブサイトにおいて博物館概要、刊行案内などの充実を通じ、情報発信の強化に努めた。
・メールマガジン及びメールマガジン読者特典ブックレットを配信し、親しみやすさの向上等に努めた。(詳しくは処理番号 2442 を参照)
・「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を発信し、来館者サービスの向上を図った。
・平成知新館(新平常展示館)に向けた当館ウェブサイトのリニューアルの準備をし、26 年 3 月に製作を完了した。(26 年 6 月公開予定)
・セキュリティ維持のため、サーバOSのアップデート及びWAF（ウェブアプリケーションファイヤーウォール）の運用を開始した。

【補足事項】
1)
・パソコン向けサイト及びモバイルサイトにおいて、特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報の提供に努めた。
・月 1 回発行しているメールマガジンについては、同様に最新の博物館情報の提供に努めるとともに、より親しみやすく展覧会の見どころや作品などを紹介する読者特典ブックレットを併せて発行した。
・特別展の会期中は、一般に普及している SNS メディア「Twitter」を通じて特別展会場の混雑状況を 1 時間ごとに発信し、来館者サービスの向上を図った。「Twitter」を使用しない閲覧者への配慮や、副次的なトラブルを抑止するためのルールも、並行して逐次見直しを行った。また、試験的にイベント等の情報発信も行い、広報効果の向上を図った。
・収蔵品データベースで公開する画像は全て見やすく整えた上で公開し、また昨年度より検索できる件数をさらに増やし、利便性を高めた。
・当年度の開館期間が昨年度の 8 割程度であったため、アクセス件数も同程度に留まった。
○システム関係
・セキュリティを向上しウェブサイト閲覧者が安心してアクセスできるようにするため、サーバOSのセキュリティアップデートを随時行った。また、高度化するサイバー攻撃に対応するため、WAF（ウェブアプリケーションファイヤーウォール）の運用を開始した。

平成知新館開館に向け更新したトップページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	1,562,480件	－	－		－	2,077,562	1,835,640	1,837,113

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2453

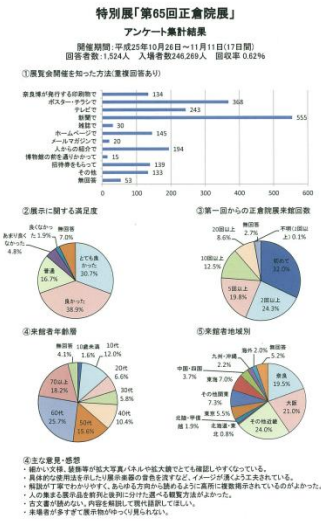
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(4館共通)
1)・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。
・特別展および特別陳列を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。特に昨年以上に掲載作品を増やし、より展覧会の理解に資するよう努めた。
・『奈良国立博物館だより』の最新版をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。
・「第 65 回 正倉院展」の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。
・アンケート集計結果を公表する頁を設け、平成23年度の「第63回 正倉院展」以降の特別展でお客様より頂いたアンケートの集計結果を提示している。

【補足事項】



ウェブサイト内で閲覧可能な
各特別展のアンケート集計結果

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	893,553件	－	－		639,030	769,293	722,249	845,202

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2454

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
(4館共通)
1)研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
1)
・特別展「大ベトナム展」、特別展「中国　王朝の至宝」、特別展「尾張徳川家の至宝」、特別展「国宝 大神社展」や文化交流展示室の「今月の名品」等を、ウェブサイトにて研究員が解説する動画を「YouTube」で配信した。また、制作したトピック展示のＣＭを 「YouTube」で配信した。

・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。

・ウェブサイトの博物館ブログにて、展覧会の内覧会、イベント情報、ミュージアムショップ情報、スーパーハイビジョンシアター(シアター4000を改称)の紹介等を行った。

・メールマガジンにて、コラム「文化交流展室の散歩道」を連載し、展示作品等の紹介を行った。

ＴＶＣＭの動画を配信した、
九博ウェブサイトの
トピック展示「山の神々」ページ

【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
ウェブサイトアクセス件数	1,209,272件	－	－		1,956,287	1,384,701	1,150,408	2,078,279

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調